

昭和五十四年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議錄第二号

館山市議會

日	時	場	所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	行政一般通告質問	渡辺軍治郎君の質問、当局的応答	黒川平治君の質問、当局的応答	石井輝久君の質問、当局的応答	安西益男君の質問、当局的応答	辻田実君の質問、当局的応答	流山源次郎君の質問、当局的応答	延會	本日の會議に付した事件
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	一一	一九	三三	三八	五〇	五五	五六

- 1 -

一、議事日程（第二号）

昭和五十四年三月七日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時三分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十七名、これより第一回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の三月五日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者ののみいたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

一八番渡辺軍治郎君、登壇願います。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、この議会を最後に引退すること

になりました。（拍手）この際通告質問に関連する基本点について明らかにしておきたいと思えます。

その第一は、受益者負担の問題であります。受益者負担の原則は少数の者の利益に対して受益の限度で負担するというのが法の精神であります。半沢市長はこの原則をねじ曲げて、使用料、手数料など公共料金の引き上げを強行し、市民生活を圧迫してきました。また、社会福祉についても、金をかけるだけが福祉ではないと、福祉に背を向けてきました。特に重要なのは、市民の生活や権利に重大な影響を及ぼす問題が、関係者との話し合いも不十分なまま、決定だから協力しろという非民主主義的な権力主義であり、これが庁内では課長を減らし、部長制をつくって、管理統制を強化する反動的な官僚主義になつてあらわれています。これと結びついて安上がりな行政を目指す事業家的、資本家的合理化政策が特徴になつています。私はこのような半沢市政と対決し、主権在民の憲法を行政の中に生かし、主権者である住民の立場を買ぬくという姿勢を崩さずにかんばつてまいりました。これから質問もこの基本点に立つて行いたいと思えます。

私の質問は次の三点であります。第一は第三中学校建設と中学統合問題について、第二は館山高校移転後の跡地利用と都市計画について、第三は三等級昇格試験についてであります。

まず、第一の第三中学校建設と中学統合問題についてですが、統合問題の是非については疑問がありますので、二回にわたり通告質問で取り上げました。本年度実施とは予想もできなかったところであります。ところが、市長の施政方針では第三中学校の建設と中学校統合を実施するというところで、予算措置まで購じてお

ります。そこで、いままでの市当局の答弁や経過を総合して質問したいと思います。

私は、五十二年の九月議会で、学校統合が切実な問題であるのかどうか、特に今回の統合問題は館山高校移転後の跡を第三中学校に利用できるという都合のよい動機から出発して統合問題が考えられたのではないかと質問しました。教育長の答弁では、「第三中学校建設については、四十一年の統合審議会の答申以来常に考えておつた問題でございます。」といつておりますが、当時の教育委員会では、義務教育人口調査の結果、就学児童、生徒数が逐次減少し、四十三年度には三分の二に低下することがわかり、市は当初の計画を変更し、第三中学校建設の構想を第二中学校の充実に転換せざるを得ない情勢にたち至つたということを、当時の田村市長が市広報で事情説明をしています。それ以来、第三中学校の建設を断念し、第二中学校の充実に努めてきたというのが事実経過であります。もし教育長が言うように第三中学校の建設を常に考えてきたとするなら、第二中学校の鉄筋改築当時なぜ問題にならなかつたのか。今回の統合によつて第二中学校は十教室が空室になります。この事実からも計画性のなかつたことがはつきりしています。文部省のいつている適正規模の学級数が必要だということはいま始まつたことではないと思います。それにもかかわらず小・中規模の中学校が存在しているということは、それなりの困難な立地条件があるからだと思います。たまたま館山高校の跡地が利用できるという都合のよい便宜主義的な考えから、教育上重要な統合問題が計画されたことについて納得ができません。釈明を求めます。

二中と三中との関係では、他の統合とは別に第三中学校の建設は必要だと思います。しかし館山高校の跡地に建設することは、他の利用度の関係で問題があると思います。第三中学校の建築用地については検討する必要があると思いますが、伺います。

次に、教育長は、館山市を一元としたコミュニティ社会の中で中学生は育ててやりたい、これが中学校の統合を考えている基本だと言つていますが、房南中学校が統合の対象にならないのはどういう理由なのか伺います。

次に、教育委員会は、中学校統合計画について関係地域で説明会を一月下旬から二月にかけて行つていますが、説明会を行つた地域、参加人員、発言数、要望意見等について伺います。

また、関係地域の教師は生徒や保護者と一番接点の深い立場にあると思いますが、統合問題について家庭の意見を求めるような指導をしたのかどうか伺いたいと思います。

次に、統合計画書には、五十五年四月に三中を建設し、北条、館野、九重地区を収容し、二中には館山、豊房、神余地区を収容し、西岬中は五十六年度以降二中に収容することになっていますが、西岬地区だけ統合を遅らせたのはどういう理由なのか伺います。

次に、通学費の負担について保護者の合意を得ているのか伺いたいと思います。

さらに、市長は施政方針で、「大方の賛意が得られましたので、五十五年四月を目途に第三中学校の建設と残された諸問題を解消し、中学校統合を図つてまいりたいと考えております。」と言つていますが、残された諸問題とはどういうことなのか伺いました。

いと思います。

第二には、館山高校移転後の跡地利用と都市計画についてですが、この問題については五十三年九月議会で質問しました。そのとき市長は「館山高校移転後の跡地利用と都市計画については、いま計画を進めているところで、計画が立案できました段階で市議会の皆さま方の御審議をいただきまして決定をいたしたいと考えております。」と言っております。五十四年度の施政方針では館山高校の跡地に第三中学校を建設することになっていきます。この地域は館山市の中心で、市長の言う文化福祉都市の実現という観点からも、中央公民館、その他利用度の高いところであり、学校建設とは両立しないと思いますが、お伺いします。

次に、第三の三等級昇格試験についてであります。二月一日人事課長より三等級昇格試験の実施について職員組合に通告されてから、組合との間で紛争を起していると聞いていますが、従来の慣行を無視して三等級昇格試験を制度化そうとする意図はどこにあるのかお伺いしたいと思います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 渡辺議員の御質問にお答えをいたします。

第一点の第三中学校建設と中学校統合問題については、これは教育長のほうから御答弁申し上げますが、その中で、御質問の中で「残された諸問題」という点についての御質問がございましたが、これは西岬中学との関連において問題が残っておりますので、それを考えたい、そういう意味でございます。

第二点の館山高校移転後の跡地利用と都市計画についてでござ

います。ただいま御質問ございましたように、館山高校移転後の跡地につきましては第三中学校の建設を計画いたしました。本議会におきまして御審議をお願いいたしておるわけでございますが、さらに近い将来、同地内にコミュニティ会館を建設しようというふうに考えているわけでございます。コミュニティ会館の建設につきましては、また今後具体的な計画案ができました段階で議会の御審議をお願いいたしたいと思っております。

第三点の三等級昇格試験についてでございますが、職員の任用は試験成績、勤務成績、その他の能力により行うということになっていくわけでございます。地方公務員法第十五条の規定でございます。従来は一定基準に達したもののうちから人事考課のみで評定をいたしておりましたけれども、人事考課のみでは客観性に欠けるうらみがあることも考えられますので、公平性を確保するためにその昇任にあつては従来の人事考課に昇任試験結果を加えて総合評価しようとするものでございます。また、これを契機といたしまして職員が自己研さんにつとめることによつて大きな意味があり、合わせて昇任試験を平等に公開することによりまして、隠れた人材発見、初級管理者として適材適所に人事管理することができ、ひいてはこれが市民サービスをもたらすようになるであろうことを期待するものでございます。

(教育長安田豊作君登壇)

○教育長(安田豊作君) 渡辺議員の第三中学校建設と中学校統合問題についてお答えをいたしたいと思います。

第一の、統合の三中計画については昭和四十三年ごろ断念しておつたんじゃないか、このような御質問でございますが、昭和四

十一年に統合審議会の答申があつた直後、その実施について地区の要望を聞いたり、促進のためのいろいろ活動をしましたけれどもなかなかうまくいかなかつた、ということは用地の問題、その他でございますけれども、それから外部的な活動はないにしても、教育委員会としては中学のアンバランスな姿をそのまま置くということにはできないという考え方は変わらなうあります。

今回、館山高校移転後に第三中学校を建てようということになつたのは、あるいは渡辺議員さんのおつしやるような、館山高校がたまたま移転するのでその跡地を利用するという便宜主義じゃないかというそしりを受けるかもしれませんが、私どもとしては便宜主義ではなくて、終始考えておつた第三中学の建設、中学統合の時期がきたんだというようにとらえまして、その跡地の利用に第三中学建設ということに計画を進めておつたわけでございます。

それと関連しまして、房南中学をいまのまま放置するのか、対象とならないのはなぜだということが、これが以前に、四十三年ごろ断念したと思われた一つの考え方が生まれる根拠といえますか、きつかけになつたんじゃないかと思えますけれども、房南中学は軍の兵舎をそのまま使つておつて非常に老朽化し、危険状態にあつたということで、そのまますることはできないという地区の強い要望のもとに房南中学の改築をしたわけでございます。

したがつて、校舎だけ、しかも木造でという建築をあるときは進めたわけでございますが、教育委員会としてはこれを同時に、もちろん議会の御承認をいただいておりますけれども、それ以外にも、もともと館山市の中学は三校案でいこうというのが四十一年

当時の考え方でありました。それを房南中学の改築を契機に四校案でいこうというように考え方に変わったような議事録を、教育委員会としては――私は見ておりますが、しかし、そのときには房南中学は九学級ありましたので、そう統合しなくてもいいんじゃないかという見通しがあつたわけでございます。現在になるとそういうことだけではいかない、房南中学は二百十五名の六学級になつていきますから、こういう点ではやや不満が残るかもしれませんが、今回の統合の対象とは考えないで、今回の統合にあたつては四校案で進んでいきたいと、こう考えておるわけでございます。

それから、地区を回つてということですが、地区を回りましたときの人員については、詳しい記録を持ち合わせておりませんが、大体百名足らずとお考えいただいて結構だと思います。

それで、そのときの要望の中には、通学問題が一番大きな問題でございまして、どこ会場に行きましてもスクールバスの運行はできないかという要望と自転車通学、その他の場合に安全対策を十分考えてもらいたい。それから農村の子供が都市へ来ることによつて非行とか、そういうことに走るおそれはないか、心配はないかというような問題、それと地域によつて多少違いがありますが、第三中学が完成した際に統合の生徒は同時に入れるような措置を考えられないか、このような要望がありました。

なお、通学費については、六キロ以上の子供に対して、その通学バス料金の半額を負担するというについては、それについての要望といえますか、少ないんじゃないかということについて

の要望は私は聞いておりませんでした。ですから、私は適当じやないかという解釈をしております。

それから、西岬中学を遅らせた理由。これもいま要望がありましたように、昭和五十六年度に第二中学に統合させる予定でございますから、一年遅れるわけでございますけれども、これは、いまの理由からいけば同時に五十五年の四月に入れるということが望まれるかもしれません。しかし、これについては西岬地区を回つて、西岬中学は老朽化しておりますので、この改築と同時に統合の問題もありますということは十分説明してあります。これは父兄を対象にして、あるいは地区の地区民を部落ごとに回つて説明してありましたけれども、地区民としてはいまの中学の建築を第一優先、それから統合については、その趣旨においては賛成だ、通学方法その他については考えてもらいたいということで、話し合いがついております。したがって、西岬中学の建築については防衛庁の予算がずつと前から進められておつて、ようやく本年度全面改築という見通しが立って予算化されておりますが、それが建つたあとで、一年は入つてもらつて中学へ統合、こういう考え方にせざるを得ない、こういうことになつたと思ひます。

それから、統合を進めるにあつての基本的な私どもの考え方としては――教師の態度というお話でございましたけれども、やはり一番関係を持つ教員の考え方をまず話し合いをもつて了解を得ているものでございます。校長会では再三の話し合いをもつて賛成を得て、そしてPTAの了解を得て、そして地区民の了解を得る、こういう順序で進めておりますので、教員の統合についての態度は賛成であるというふうに解釈しております。

○一八番（渡辺軍治郎君）　いまの回答ではだいぶ不十分な点がありかがえるのですが、まず第一の統合問題についての便宜主義的な扱いではないかということについて、この問題に対する考え方は、第三中学校の建設は終始考えていたんだというふうなことで、すが、大体経過的に見て、これは統合問題が文教民生協議委員会に報告されたのは五十二年度です。九月に私が通告質問したわけですが、たまたま第三中学建設というのは館高の跡地があくのでそこにつくるといふのが発端になつて、合わせて統合問題が出てきた、前から統合問題が出てきたわけではないわけです。話しの中では、神余と豊房はかなり生徒数が少ないということで、前からそういう話はありましたけれども、八百人程度の適正規模の中学が必要なんだというよりな説明は、これは五十二年の九月ですか、そういう時期に館高の移転がはつきりしてきただけで出てきたわけです。だから、私が便宜主義というのは、館高があくならその跡に第三中学校を建てる、ちよいどいい機会だということからこの問題が始まつた、それでなかつたら第二中学校建設当時に統合問題というのは考えられておつて、館高の跡地ではなしにほかの適地を求めるといふことがあつてもよかつたと思うんですが、そういう話は私は八年間議員をやつてゐるけれどもありませんでした。そういうことで、統合問題が本当に真剣に考えられたとは受け取れないんです。この回答では私は納得することはできないわけです。

もし第三中学建設ということが真剣に考えられたならば、館高があつた時分からどつかわきに適地を求めて建築するということが妥当だと思つてゐるんですが、だから防音校舎として第二中学

が建設されたときに第三中学のことは考えられていなかった、それだから統合すれば十教室も余るということになるわけです。非常にそういうことでは無計画、そういう無計画の中で統合問題が起こってきたというのもこれもまた無計画を話だと思ひんです。

そういう点ではこの答弁は了承できません。

それから、答弁漏れでは、第三中学校は館山高校の跡ではなくてほかにつくるべきではないかという質問をしたんですが、その答弁はありませんでした。これは館山高校跡地利用との関連があるんで、おそらく別につくろうという考えはないかもしれませんが、これは跡地利用の問題で触れたいと思います。

それから、第三番目の房南中学が統合の対象とならない理由については、房南中学は、教育長が言うように二百十五人、六学級という適正規模の中学が必要だという文部省の基準ならば、なぜ基準どおりにやらないのか。ほかの学校は基準どおりにやつて房南中学はできないという根拠が全く答弁ではつきりしません。大体いまは四校案でいくんだ、そういうようなことを言つても、適正規模の学級といえ八百人ということを目標にしているわけですよ。西岬や九重や館野や豊房、神余を統合して、そういう規模の中学校をつくろうとするのに、房南中学が、二百十五人という中規模の中学校が統合されないでそのまま残るということとは、統合計画そのものが適正基準といつてもそうなっていない。どう説明をするのか、答弁をお願いします。

それから、説明会を行つたと言つておりますが、私が質問したのは、どこで行つたのか、その地域の集まつた人はどのくらいなのか、どういふ発言や要望があつたのか、集まつた中での発言数

はどのくらいなのか。なぜ私がこれを問題にするかというのと、関係地域の人たちがこの統合問題について納得しているのかどうか、そういう点が重要ですからこの問題を質問したわけです。

教育長答弁だと百人程度だと言つています。これはただ単に中学校だけではありません。いまの小学生はやがて中学生になるわけです。だから小学校、中学校に通っているそういう人たちの大半の意見を聞かないで統合するということは非常に無理があります。納得の上でやらないということではこれは行政ではないと思ひんです。

西岬地区は東小、西小、中学を合わせますと生徒数では四百六十人あります。全体で百人というようにすることに受け取つたんですが、西岬地区で何人集まつて、何人の人たちと話し合いをしたのか。神余地区では小・中学校合わせて百四十人あります。こういうところでどれだけ集まつて説明会をやつたのか。豊房地区では小・中合わせて二百八十人あります。こういうところではどのくらいの人たちが集まつて話し合いに参加したのか。館野、九重で五百二十六人、小・中学校合わせて。こういうところではどのくらい集まつて、どのくらいの人たちが話し合いに参加したのか。そういうことが中学統合を進める上で非常に重要な問題です。

あとのほうで、通学費の問題で合意したのかと聞いてもはつきりしておりません。了解が得られそうだといいことだけなんです。この中で、話し合いの中で出てきたのは通学問題が主です。当然なんです、遠距離から通学するんですから。通学費の問題をどうするか、この負担がどうなるのか、将来にわたつて、統合当初だけではありません。これから小学校の子供が中学校に上がつて

それから通学するというような長期にわたって通学費の問題は考えなければならぬ。だからスクールバスはどうなんだという問題が意見として出てくるわけです。さらには自転車による安全通学、幹線道路といつてもいま自動車の過密時代、交通事故は当然考えられます。こういうことについて保護者が心配するのは当然です。

また、統合したら、非常に純朴な農村や漁村地域の子供が市街地へ出てきて非行のおそれがあるんじゃないかというのも保護者とすれば当然なんです。最近二中の三年生の中かなり非行化が進んでいると聞いております。これはちまたのうわさになつているんですが、そういう実態をつかんでいるのかどうか、保護者が心配するのは当然なんです。

こういう統合問題というのは、いろいろな問題を抱えているわけです。いままでの説明では全くこれらの点について不十分であります。不十分のまま統合するから協力しろでは済まされぬ。市長は残された諸問題が西岬中学との関係で残つているといふ簡単な答弁なんです。西岬中学の問題で残つているとすれば、先だつての全員協議会では西岬地区で説明会をやつていないということと言つております。中学統合問題は、教育長の言うように、館山市を一円としたコミュニティ社会における教育ということ、その中で生徒を育てるということをやつているわけです。だとするならば房南中学を含めて、あるいは西岬地区で未解決の問題たくさんある、こういう問題を解決することをしないで統合していいのかどうかということです。なぜ急いで統合しなければならぬのか、そのへんが全くはつきりしておりません。その点をどう

お考えになるのか、合わせて質問したいと思ひます。

○教育長（安田豊作君） 第一の館山高校移転を契機に便宜主義として統合問題がもち上がったんではないか、これはさつきも申し上げましたように、それをタイミングとしてこの問題が表面化しましたのであるいはそういうふうにお考えになることがあるかも知れませんが、私も、私どもとしては便宜主義ではなくて、昭和四十一年から一貫して統合問題は考えておつたわけでございます。それは、小・中学校の校舍建築計画として計画的にもつておつたわけです。たまたま統合中学をどこにするかという問題については、私も、私も教育委員会としてはいろいろの適地を、館山高校跡地以外にその周辺で適地はないかということで探しました。しかしそれを固めて議会の皆さんの御承認を得るまでに至らなかつたということなんです。たまたま館山高校の跡地が使えるということでは通学の問題、その他から考えて最もいい時期で、いいところではないかという、これは建築計画の上からいっても、場所の選定等両方からいい時期ではないか、こういうことで今回お願いした次第でございます。

ほかに適地はないかという問題でございましたが、人によつてはいろいろの考え方を持つようでございますけれども、私どもとしては総合的に見て館山高校が最もよい中学としての適地だと、こういうふうにお考えたわけでございます。

それから、房南中学の問題は小学級だからということでございますけれども、八百人にはなりませんけれども、小学級ならそう支障なくいけるんじゃないかという内容的な面もあります。それよりもむしろ房南中学が地区の要望と議会の皆さんの賛同のも

とに建築が済んでいるということ、これはやはり私どもとしては、教育委員会としては当初三校案を四校案に変更せざるを得ないという考え方にまず立つておるわけです。しかし今後永久にそういう考え方というわけではございませんで、木造ですから改築の時期もあろうかと思えます。そういうときにより広い立場から適正規模の統合問題も考えていかなければならない、そういう点が第二次、三次の考え方として、あのまま放置するという考え方は毛頭ありません。

それから、地区の要望についての答えが不十分だったということですが、不十分だったかもしれない。もつと詳しく申し上げなければいけなかつたかもしれません。この統合の問題について一番やつぱり関心を持つのは中学校の父兄よりも小学校の父兄です。統合の晩には小学校の五年、六年が入りますから、ですから小学校のPTA、特に五年、六年だけの父兄を対象に話し合いをもっております。それから中学のPTAの皆さんとももちろん話をしますし、そういうことで直接関係のある方々の要望はかなり聞いたつもりであります。

ただ地区一般について話がしてありませんでしたので、先だつて館野、九重、豊房、神余で回覧板を回して集まれる方全員に集まってもらつてお話しした、それが約百名ぐらいということでございます。どこに行つても要望のことについては通学問題と一部教科の問題と、入るなら一時に入れるようにしてもらいたい、こういう要望が一番強かつたように思っております。

○議長（吉田勇治郎君） 跡地の政治的判断について……

○市長（半沢良一君） 第三中学の建設用地として現在の館山高校

の跡地を利用することが適當であるかどうかという御質問でございますけれども、教育委員会とも相談し、市のコミュニティーセンターとの関係を考えまして、先ほど御質問ありましたように館山市の文化教育のセンターとして適當な土地であるというふうに考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの答弁を聞いた中で、やはり一番問題になるのは地域住民との話し合いだと思ふんです。

私がさつき質問したその地域の教師は家庭や生徒と一番密接なつながりをもっているわけです。そういう教師が家庭と統合問題で話し合いをしたのかどうかということを、そういう指導をしたのかどうかということを質問したわけです。私があるところで聞いたのは教師は統合に賛成するという立場に立たされているわけです。話し合いの中ではその必要性を訴えられれば、これは教育委員会に、おそらくそういう方針に反対する意向だつたらとばされる危険があるから（笑声）話せないわけです。要するに正しい意見というのが反映しないような状況に置かれている。だからある校長はそういう先生に対して統合問題で家庭と話し合いをしないようにというふうに言われているというふうに聞いているんです。問題は無理な統合ですから、反対の声は当然起こつてくると思ふんですよ。そういうことを押さえているから徹底的に地域住民の意向をつかむということがやられていないんです。

全地域を集めて、西岬を除いても、たつたの百人ぐらいの人を対象にして開いているということでは問題があります。もう一べんこの統合問題については焦らないでじっくり考えて、保護者との話し合いをよくやつて、残された諸問題たくさんあります、通

学問題、安全通学の問題、そういうようなことがちゃんと煮詰められて進められなければだめだと思うんですよ。だからそういう点で——時間がありませんから、この問題は議案にも出ておりませんし、予算も組まれておりますから、その中でもっと徹底的にやっつけていきたいと思っています。

次に進みます。跡地利用の問題ですが、市長はやはりあそこを一つの文化の中心というふうに考えておるようですが、館高の跡地は、これは館山市の十年先をみた、そういう都市計画を考える上からもあの地域は非常に重要な地域、そこに第三中学が建つことによつて、文化の中心としての中央公民館、あるいはコミュニティ会館、あるいは児童館とか婦人会館とか体育館、これは市民が要望しているという事項なんです。その要望にこたえるためにもあそこの跡地は相当利用価値の高いところなんです。最近では都市の中央に公営の駐車場をつくつてもらいたいという意見が圧倒的に出ております。あそこは市が安い料金で駐車場として開発しても館山市のために大きく役立つ問題だと思うんです。こういう問題が考えられるのに、第三中学の建設によつてそれが妨げられるのではないか。だから第三中学は適地をよそに求めたいいのではないかと言っているんですが、この問題について市長の答弁を聞いていても時間をつぶすだけですから、次に進みたいと思います。

最後に、三等級昇格試験の問題についてですけれども、市長の答弁では一定基準といいますが、人物評価につながると思うんですが、試験制度そのものがはつきりした基準というものはないと思うんです。従来は高校卒で十二年、大学卒で八年間経てば大体

三等級に進むというのが慣行であつたわけですよ。初めて今度試験問題が出てきて、回答では人物考査を進めるために総合的な資料の一端として試験をやるんだ、それが公平化であるし、人材を抜きて適材適所というふうな理屈はつけております。

しかし、基準を決める場合に、もし試験をやつた場合に、試験をやつた成績——合格した者が昇格して不合格な者は落ちる、当然そういうことになると思うんです。全員資格があるのに、試験をやつて受かつた者が昇格して受からない者を落とすというのはこの試験をやる目的は結局のところ昇格できる人間を試験によつてふるい落とす、そういうことにつながる面が相当強く出てくると思うんです。

いままでの人物評価をする場合の基準というものははつきりしていないわけですよ。その中で一番はつきりするのは試験によつて合格、不合格が出てくればどうしてもそれが基準にならざるを得ない。そうなると、市の中の職員の状況をみれば、現場の職員、女子職員、事務職員、いろいろそういうふうに分かれているわけです。分かれている条件の中では、勉強しやすい条件にある人、ことに現場で市民に奉仕することに専念している職員は試験勉強する間がありません。学校で試験をやるのは、勉強をした一定の成果の上に立つてやられるわけです。もし市長が言うように人材を抜きてやるということをやりますと、市民に奉仕する事務は残つたらかして勉強するということとで、一面では市民サービスを低下させるような側面も出てくる危険性があります。

この試験制度そのものが、実施された場合は、ただいま申しましたようにはつきりする面が出てくるんで、それによつてほかの

能力のすぐれた人もバーテストによる試験でそれには合致しないということになりかねないわけです。非常にこれはむずかしい問題で、市長が言うように、人物判断をどうするかという資料、ことに試験であればそれが唯一の資料になりかねない、そういう点でいろいろな問題が出てきます。職員相互間の摩擦も相当起こります。従来の慣習でやつていたということは、課長がよくみていると思うんです。誰が三等級に昇格するかということでもみんな注目していると思うんです。その妥当性についてはみんなが了解して、あの人なら当然だということが一つの慣行としてやられてきたわけです。その慣行は大事にしなければならいのではないかと。職場の中に摩擦、あるいはそういう不愉快なことを持ち込んで事務能力が上がるといふようなことは全く考えられません。事務能力を進めるために必要なのは研修活動だと思ふんです。もし本当に事務能力を向上させるために市が考えたとすれば、これは研修をやつて、そういう方向で十分事務能力を上げさせ、三等級に昇格する、そういう人間がつくれるんじゃないか、そういうふうに考えます。したがつてこの昇格試験は撤廃すべきもんだというふうに考えますが、どうお考えになるのかお聞きいたしたいと思ひます。

○市長（半沢良一君） 先ほども申し上げましたように、地方公務員法第十五条で、任用は試験成績、勤務成績、その他の能力により行うことになつてゐるわけでございます。御心配のように、その試験の成績だけで昇任を決めるということはいけません。研修の必要性についてはおつしやられるまでもなく十分私も承知いたしております。就任以来職員に対する研修計画を立てまして、

十分研修を進めているつもりでございます。それは試験とは関係なしに職員の能力開発ということで続けてきたわけでございます。そういう意味で、御心配のようないろいろあるかと思ひますけれども、少なくともいままでより以上に昇任についての客観性を持たせたいというのが私の考え方でございますので、試験を撤廃する意思はございません。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一八番議員君の質問を終わります。次、五番議員黒川平治君。登壇願ひます。

（五番議員黒川平治君登壇）（拍手）

○五番（黒川平治君） 私は、今回通告してあります諸点について質問申し上げます。

質問の第一点は、道路の整備促進についてでございます。最近道路関係についてはよく要望にこたえて整備されてまいりましたが、山村部落ではまだまだ整備するところがたくさんございます。

今回通告いたしました小さな一は、市道第二九号線畑より豊房育成牧場に通ずる道路で、もともと農産業道路でいまでも林道でございます。現在市の育成牧場、また運輸省の航空標識塔の施設があり、付近の農家の生活関連道路でもあり、利用度が高度に高揚化され、前に申し入れたこともありましたが、運輸省で整備するとのことですが、あまり延び過ぎるし、また路面があまり悪過ぎるので、今回舗装整備の促進をお願い申し上げた次第でございます。よろしくお願い申し上げます。

小さな二でございますが、ただいま申し上げました市道第二九号線と今定例会に提案されております議案第二十二号、やがて市道

に認定されようと思えます東虹苑の道路との接続道路でござい
ます。夜間通り抜けようとする、入口、また出口に鎖が張られ非
常に不便でございしますので、途中に通り返けのできるように道路
の取り付けをお願いいたしたく通告いたしたわけでございます。

また、この取り付け道路ができれば、部落住民の生活関連道路
として便利に利用されますので、よろしくお願いいたします。

小さな三点でございしますが、県道中山バス停より現在市で予定
しているし尿処理場入口の旧県道、和田板金前の道路でございま
す。生活関連道路であり、地元民の要望でございしますので、舗装
整備をお願い申し上げる次第でございします。

小さな四点は、大石神余線市道、大石より中里部落を通つて大
石ごみ処理場へ行く道路でございします。生活関連道路であり、地
元の要望もございしますので、舗装整備をしていただきたくお願い
申し上げる次第でございします。

次に、大きな第二点は、豊房育成牧場の今後の管理についてで
ございします。

小さな一でございしますが、安房畜協に管理委託の件でございま
すが、幸い断られたので問題化することはございませんが、管理
委託を頼みに行つた条件の内容に問題がございします。と申します
のは、無条件で委託するから管理してくれと申し込まれたそうで
ございしますが、館山市でなんで管理できないのですかと聞かれた
ときに、赤字になるからと申され、管理してくださればその赤字
は館山市で補てんすると申されたそうでございします。その真意を
御説明願います。

また、安房畜協で管理すれば安房郡一円が利用対象になります

よと言われて、今度は館山市の条例に基づいて管理してくれとい
うことを申し込んだそうですが、畜協では検討した結果断つた。
なぜそういうことをするのかお伺いします。

次に、小さな二でございしますが、入牧牛の収容頭数の増加及び
牧草地内の雑草の抜き取りをしているかどうか。これは草地管理
の面でお伺いいたしたく質問申し上げます。

次に、小さな三でございしますが、牧草地の造成計画を考えてお
りますかどうかお伺いいたします。

次に、四点でございします。育成牧場の雑排水の終末汚水が南部
水道の水源を汚染してはいないか。もしあつたら対策施設をする
ように忠告申し上げたのでございします。お伺いします。

小さな五でございしますが、合理的に牧場を運営するには人件費
の節減と経済的見地から、飼育管理人の現業職員の採用を考えた
らどうかお伺いいたします。

次に、大きな三でございします。畜産複合地域環境対策事業につ
いてでございします。

小さな一でございしますが、畜産複合地域環境対策事業の事業主
体の決定でございします。当局のいままでの事務担当者の御努力に
対し非常に感謝しているものでございしますが、最終的な事業主体
の未決定により本事業ができるかできないかのところでとまつて
しました。本事業ができることによつて畜産農家百十二、小牛農
家八十六戸の安定した小牛農家、畜産農家の複合的経営の合理化
が図られ、なお地力の維持、畜産公害の対策が一挙に解消できる
すばらしい事業であり、また国六分の二、県六分の一、市六分の
一、受益者負担六分の二の補助率の高い事業でありますので、事

業主体の決まらない場合この事業ができなくなり、そこで県の指導は市町村または農協としておりますので、農協か市で事業主体になつて本事業の遂行に御尽力くださるよう通告をもつて質問申し上げた次第でございます。

それから、小さは第二点、畜産公害に対する施設等市の対策がございましたらお伺いします。

以上、質問申し上げます。（拍手）

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 黒川議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点は、道路整備の促進についてでございます。

小さな第一点は、市道二九号線の先豊育成牧場に通ずる道路航空標識塔入口のところ、運輸省に促進要請か、市で行うか、道路舗装整備してもらいたいという件でございますが、御指摘の道路は林道でございますので、南部林業事務所並びに航空局と現在協議中でございます。これは航空局から舗装について申し入れがあつたわけでございますので、それに対して次の二点を航空局に回答しているわけでございます。すなわち市道認定基準に合致しなければ困る、合致させてもらいたい。そこで林道が分断されますので、分断されました林道についても公共災害が発生した場合に応分の寄付をもらえらるかどうか。その二点でございます。これについてはまだ回答がございません。

小さな第二点は、議案第二十二号の東虹苑の道路と市道二九号線との中間接続道路の取り付けの件でございますが、市道二九号線との中間接続道路は東虹苑が所有しているわけでございまして、東虹苑が維持管理を現在しているわけで、一般の車の通行は現在

とめられているわけでございます。東虹苑側といたしましては、維持管理の立場もありますので早急にはできないといたしまして、地域住民の便利のために協力願えるよう今後も東虹苑と話し合つていきたいというふうに考えております。

第三点、中山バス停から現在予定しておりますし尿処理場入口の和田板金の前の県道の舗装整備の件でございますが、これは旧県道で現在里道と同じ扱いになっているわけでございます。市といたしましては現在地域住民の要望に沿ひましてじゃり道としての維持補修をしておりますので、今後も生活道路の整備を進める中で舗装化を検討していきたいと思ひます。

小さな第四点、大石神余線の市道より大石のじん芥処理場に通ずる中里、大石の間の道路の舗装整備の件でございますが、これは元来里道でございます。しかし市道の舗装整備とともに、生活関連道路の舗装化につきましては地域住民の要望にこたえて逐次進めてまいりたいと現在考えておりますので、この道路についても今後検討をいたしていきたいと思ひます。

大きな第二点は、豊育成牧場の今後の管理についてですが、第一点の安房畜協に管理委託の件でございますが、これは経済部長の方からお答えいたします。

第二点の、入牧牛収容頭数の増加及び牧草地内の雑草抜き取りの件でございますが、育成牛をふやすことにつきましては施設そのものが——現在九十頭でございますが、その九十頭に見合った施設でございますので、これ以上の頭数はちよつと考えておりません。

牧場内の雑草の抜き取りにつきましては、職員及び季節的な雇

い入れの人夫によつて除草作業をやっているわけでございます。

牧草地の造成のし直しを考へているかどうかという件でございます。この件につきましては過去にも県農業開発公社に依頼いたしました検討しましたが、現在の牧草地の造成し直しを実施した場合、ある期間預託頭数を減少しなければならぬような状況になりますので、現在の牧草地をなお一層効率的に活用できるように検討いたしてまいりたいというふうに考へております。

第四点の雑排水の処理の件でございますが、育成牧場の雑排水については草地還元を行つておりますので、これによる水源地における影響はないというふうに考へております。

合理的な牧場運営の面で飼育管理人の現業職員をふやしたらどうかという御意見でございますが、現在職員三名、臨時職員二名計五名が常時仕事に従事しておりますけれども、必要があれば人夫の雇ひ上げを行つてゐるわけでございますので、職員の増員は現在考へておりません。

大きな第三点の畜産複合地域環境対策事業についてでございます。

第一点は、畜産複合地域環境対策事業の事業主体の件でございますが、農協というの私が申し上げるまでもなく生産者の団体でございますので、事業主体として一番ふさわしいものであると考へますし、また県からの指導もございしますので、現在館山市農業協同組合と折衝中でございます。ただ館山市農協の役員の改選が本年二月の二十六日でございますために、まだ農協から承諾が得られなかつたものでございますけれども、農協の新役員も決定いたしましたので、再度農協さんと事業主体について御相談い

たしたいと考へております。

第二点は畜産公害に対する施設等市の対策、指導についてという御質問でございますが、畜産公害に対する施設といつたしましてはビニールハウス建設に対する利子補給及び畑地区で実施いたしました家畜公害対策事業に対する助成を行つてまいつたわけでございますが、今後も県当局並びに酪農家の皆さんと協議いたしまして、地域に適合した事業を推進してまいりたいというふうに考へてゐるわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○経済部長（太田博雄君） 安房畜協に管理委託の件についてお答え申し上げます。

私のほうといたしましては、畜協にお話し申し上げましたのは、現時点におきまして、現在館山市が行つております運営をそのままの現状で委託できないかということで照会いたしましたわけでございます。これは育成牧場のみならず、市におきましては事務事業の見直しというのを毎年行つてゐるわけでございますけれども、この一端といたしまして私どものほうは一応育成牧場を取り上げてみたわけでございます。この点につきましては県に移管していただきたいということが最高の希望であつたわけでございます。それと同時に農協のほうにもお話し申し上げましたし、畜協のほうにもお話し申し上げたのが現時点でございますが、もちろん委託ということにつきましては財政面等の関連も出てくると思ひますけれども、あえて私のほうでは赤字解消とかということで申し入れたわけではございません。

○五番（黒川平治君） 第一の神余二九号線から牧場までの道路、

運輸省の航空標識塔の下、これは何回となくお願いしてあるわけなんで、ただ交渉中はよくわかるけれども、あまりにも悪いから、少しでも早く整備してください。こういうお願いなんです。交渉している段階はわかります。ですから早く整備してください、こういうことなんです。

第二点も、これはもともと承知しております。やはりでき上がる事が一番いい、一日も早く住民の要望にこたえて整備をしていただきたい。これは、第一点はすべての面に対してそういうことがいえると思います。

最後に、中山、大石、これはただいま市長さんのお話のとおり生活関連道路として逐次整備する予定という、それはよくわかりました。

次に、豊房の育成牧場でございますが、私も非常に苦慮していることはよくわかるんです。しかし経営の面ももう少し細かく伺いますと、あれは借りた当時何町歩借りておりますか。それと現在地代は使っている分だけ払っているのか、百九十八万二千元この地代は全体の面積に対して払っているのかよつと伺いたいします。

○経済部長（太田博雄君） 育成牧場の借りております地積は、六十二ヘクタールでございます。

○五番（黒川平治君） 町歩で言ったらどのくらいになりますか。

○経済部長（太田博雄君） 六十二町でございます。それと賃借料は百九十八万一千二百円。十アール当たり三千二百円、中に一筆のみ二千六百円という個所がございます。以上でございます。

○五番（黒川平治君） この施設は昭和四十五年六月十一日に酪農

発展と乳牛の体質の向上を図るための施設として乳牛育成牧場を設置してございます。それで現在トラクターの入る、実際に利用している六十町歩のうちの何町歩がそういうふうに使われているか、ちよつと伺います。

○経済部長（太田博雄君） この点につきましては、以前県の農業開発公社によりまして一応草地造成等に関連いたしました調査を願ったわけでございますが、この時点で約四十あまりの使用をしておるといふことを聞いております。ということは残りの二十足らずのものは使用不可能ということになっていると思います。

○五番（黒川平治君） 私はこの施設は立派ないい施設で将来存続していただきたいというふうな面から、決してあなた方にその面をついているわけではございません。

私が伺いましたところでは、大体三分の一の二十町ぐらいいはよく機械が入るし、これが使われているが、四十町ぐらいいはあまりよく使われていない。先ほど私は雑草の面で雑草の抜き取りをやっていますかということは、やはりこれは当時牧場の管理そのものに条例化されている面があるんじゃないでしょうか、雑草とかあるいは牧草に害をするもの、じゃまになるもの、そういうものは取り除いてくれというふうにたしか私は記憶しておりますけれども、六十町の地代を払って実際使っているのは二十町、おたくさんの説明だと四十町歩、あとの二十町は利用できない、それでこれを造成して全部を使いようなお考えがありますかどうか、私はそれを聞いたわけでございます。

非常にこれは大きな問題だと思ふんです。畜協へ行つて畜協がうまく受けてくれれば――畜協の方はそういうことは申しません

けれども、あまりにも館山市のだらしないことを奮闘に頼みに行つたために大きく宣伝されております。われわれも過去にいろいろなことがございます。人に頼みに行つて成功すればそれが秘密裏に終る、不成功に終るとすべて悪い面で宣伝される、これは一般社会の常識でございます。館山市内にも酪農経営に通じた方はないわけではございません。私も畜協当たりの運営をもろ手を上げて一〇〇%いいものとは考えておりません。もう一遍こういう面を、六十町歩全体を使い、そのためには造成し直すというような方向でお考えがありますかどうか。

○経済部長（太田博雄君） この点につきましては、先ほど農業開発公社の調査いたしました説明を申し上げたわけでございますけれども、地形的に見まして非常に困難性のあるということを承つておるわけでございますが、さらに検討いたしましたして私のほうで調査に入りたいと思うわけでございます。

○五番（黒川平治君） 検討して調査に入るといふことは、やはり前向きな姿勢で造成し直すということと理解してよろしゅうございますね。結構でございます。

それから、管理の面でございますけれども、今度の予算に種代として二十四万二千万、肥料代として百三十七万五千万、これはやはりあのままの牧草地を造成しないと、牧草地は高いところ、低いところ、起伏が極端だと高いところは一雨ごとに流動する。地力が流動するとなかなか牧草は生えない、雑草は生える、雑草が高いところに生えたと花が咲いて実がなつてその種が拡散される度合が高くなる。そういうことは実際でございます。私もはやつておりますから、それだけはつきり——どんな、あなた方

がどうあるうとも、私は体験済みでございますので。その点ひとつ将来の牧草地の管理、これをお願いしたいのでございますが、いかがでございますようか、お伺いいたします。

○経済部長（太田博雄君） 検討させていただきます。

○五番（黒川平治君） わかりました。検討するということで、前向きな考え方なら結構でございます。

それと、もう一つは、牧場の赤字の原因は何か。私はやはり人件費だと思ひます。ここで現業職員を募集したらどうか、一般職でなく——牛を飼う人は英語もフランス語もできなくてもいいので、健康でまじめで前向きに体を動かす人ならそれでいい。現業職員と一般職員、いま現業職員はなくなつたそれでいい。やはり牧場を運営していく以上私は必要だと思ひます。そこで現業職員をふやしたらどうか。あなたの方のような立派な一等職員は一人あればいい、一人もいらないうらひです。この点もう一遍御回答願ひます。

○経済部長（太田博雄君） 五番議員さんのおつしやる現業職員と申しますのは、ちよつと私には解釈できないわけでございますが、実は給料表によりますと、過去におきましては行二、行一という形の中で現業職員は行二という形であつたわけでございます。すなわち育成牧場で現在働いております職員さんたちは行二という形で、行一とは別な形で扱つていたわけでございますので、給料表は一本になりましたけれども、私もは一応現業職員という形で現在みておるわけでございますけれども、現在おります職員の中で高い月給ということをおつしやられましたけれども、最高のもので約十五万足らずの者が現在おるわけでございますが、これ

も入りました当時は当然安かつたわけでございますが、長い間勤めた中での形がこうなつたわけでございます。そういうことを繰り返してまいりますと何年かですつても入れ替えしなければいけないという形が出てくるわけでございますので、現在の給料等からみまして決して高いものではないというふうに考えております。

○五番（黒川平治君） 現業職員はなくて一般職員だけにしてしまつた、これはよくわかるんです。

臨時職員が現在牧場には二人おりますね。あの職員の月額を支給額とそれからあそこにいる職員との額をちよつと教えてくださいます。

○経済部長（太田博雄君） 臨時職員の給料につきましては、ただいま資料を取り寄せて御報告いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 五番議員に申し上げます。それを残して次に進んでいただきたいと思ひます。

○五番（黒川平治君） 次は畜産複合事業の事業主体のお願ひでございますが、先ほど市長さんは農協に連絡中だということでございますが、これはもう一歩進みかかつているような状態でございしますが、農協のことはここにお出になる秋山さんに伺えばよくわかりますけれども、これは県の指導で市町村あるいは農協どつちでやつてもできることなんで、こういう両者にもう少し気持ちを通じていただけたらあるいは市でもできるんじゃないか。県の指導ではできるようになっておりますが、要綱案でしたらここにありまして、よくお読みください。これは安房支庁から持つてきましたものですけれども。

だから、こういうことで、これがいつやつてもいいもんじやな

いです。期限があるんです。事務的な面はよくやつているんですけれども、最終的に事業主体が決まらないために、これが非常にまどついているわけなんです。いつやつてもいいものではなくてたしか十七日か、が期限だと伺います。これは秋山さんここにお出になられて、農協の理事でございすけれども、いろいろやりたくないのか、趣旨には賛同していただいておりますけれども、前農協の役員、今回の役員には両方ともお願いしてあるわけでございます。それでもなかなか進まないで、私はめんどろくさいから市でやつていただけたらというふうにお願いしているのでございますが、この点。

○市長（半沢良一君） いわゆる行政の事務事業の見直しをしている面で民間委託をできるものは民間委託をしたい、効率よくしたい、そういうふうに考えておりますので、市で直接事業主体となつてやることは考えておりませんので、あくまでも農協さんをお願いしたい、そういう方向でお願いしたいと思います。

○五番（黒川平治君） 市長さんもう少し考えてくださいよ。民間委託でやるとこういう条文のもとにはみんな市に行つてしまふんですよ。これは安房支庁から持つてきたものですけれども、これは農協でもやりたがらなくても通ることなんです。そうすると私どもは——非常に補助率がいいんですよ。三分の二の補助金、そのうちの市が六分の一を負担するんだけれども、受益者三分の一、国が三分の一、県が六分の一、市が六分の一、こういう補助金がつくということだけれども、なかなか農業関係では米はだぶついているし、牛乳はだぶついている、こういう事態になかなかこういう補助率のいい事業はない。そこで利用する者が二百人あるわ

けです。こういう面に立つてぜひひとつこれをお願いしたいんです。のちほど市長さんにはこれは話し合いの段階で——立場上お困りのようですが（笑声）、それはいいですから、やる気があれば。期限が十七日ですからそれまでに間に合えばいい。言葉は多く使いたくない、要はできれば結構です。

それから、市長、先ほど公害対策に対してはハウス、そういう施設の考案があると申されましたけれども、五十四年度予算にそれはどのくらい組んでございますか、ちよつと教えてください。

○経済部長（太田博雄君） ただいまの点、資料を取り寄せますので……。

それから、先ほど育成牧場の臨時職員の給与の件でございませけれども、男性で一日三千円、女性で二千八百円、これは五十三年度でございませが、五十四年におきまして多少アップすべく考えているわけでございます。

以上でございます。

○五番（黒川平治君） 職員の月割り報酬、あそこにいる。

○経済部長（太田博雄君） 現在三名おります。ほかの手当等はちよつといま手元にございませんけれども、一名が十五万二千八百円、もう一名が十三万七百元、あと一名が十四万一千八百円でございませ。

○五番（黒川平治君） 先ほど私が現業職と申しましたけれども、私の言つた意味がわからないとおつしやいましたけれども、現業職とはその場で働く労働者のことを、私どもそう記憶しておりますが、現業職とは限られた場所であつて労働者、それは間違つておりましようか、私はそう考えております。

そこで、こういうような一般職員を頼む、そして牛を育成しても育成費は出ない、元がとれない。これは当然のことなんです。

しかも発足当時条例には百頭入れるように出ておりますけれども、昨年の実績は約九十二頭、当時は大体八十頭ぐらいの——施設は現在八十頭、百頭入れるようなところを、四十五年から今日まで八十頭そのままで百頭も入れる施設がない、条例からいくと、私頭が悪いのでわからないけれども、実際にやる場合には何か考えられるのではないのでしょうか。私は真剣に、豊房の育成牧場の運営が円滑に、しかも皆さんが利用するに懸命に考えているからこういう考案が出るのであつて、四十五年からいままて条例には百頭、これが現在八十頭、そこに十頭は入れるところがなくて困つている、現場の人は工夫しながら飼つてゐる、こういう状態でございます。

それから、次にあれを全体的な牧草地を活用し、もつと運営を赤字の出ないようにするんなら、現在の頭数の倍以上飼わなければ上がらないし、預託料以外にあの牧場の収益はおそらくないと思います。そういうことで、先ほど頭数を増す考案はないとおつしやいましたけれども、もう一遍お考えになられたらお聞かせ願いたいと思います。

○市長（半沢良一君） 御案内のように現在豊房育成牧場は赤字でございませ。いまのままの形で頭数をふやすということは考えられないので、ふやす気持ちはないと申し上げたわけでございませ。

○五番（黒川平治君） 市長、それは当然のことなんです。現在のままでは、造成し直し、つなぐ所を作り、そしてふやして、ネクターを絞めた一般職員でなくて現業職員をふやす、そして運営す

ればかなりあの牧場は立派に生きると思っています。そういう面で、先日市長とどつかの会合のときに、いけなければ私が管理しましょうかと冗談に言ったことがございますね。私もいつもそのくらの気持ちを持っております。このままでは確かに赤字なんです。牛は働く人がいなければだめなんです。やはりそういう面でひとつ畜産奨励委員会という諮問機関がございますので、ああいふ機関と相談して、やはり黒字になるような運営をしていただきたい、そういうふうに思います。

まだこまかいところいろいろございますけれども、あまり私はお昼前になるとどうも体がおかしくなるので、きょうはこのへんでひとつ……。どうもありがとうございます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で五番議員君の質問を終わります。

次、一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）（拍手）

○一四番（石井輝久君） 私は、今次定例会が昭和五十一年度以降四年間の三月議会のうちで二つの重大な意義を持つものであるという認識に立つて質問しようとするものであります。

重大な意義の一つは、半沢市政がいよいよ二期目に突入した直後の初の当初予算を今次定例会に提出されたことであります。つまり、本間前市政よさよならと標榜しつつ、みずからの半沢カラーを市政に反映した予算を編成されたであろうという点に私は重大な意義の一つを見出しているでございます。

第二の意義は、半沢市長の二度目のスタートと全く相反しまして、私ども議会議員の任期が今次定例会をもって終えんをつけるというところにあると考えるのであります。今次定例会こそ私

ども議会人にとつては四年間の任期を終るにあたって市民の審判の前に立たされ、議会人としての鼎の軽重を問われるときに直面しているという点に重大な意義の二つ目を見いだすわけであります。

でありますから、私は四年間の議員生活の総決算という意味と、二期目の半沢市政の誕生という両面の意味を含めまして以下質問いたします。

本日の私の質問は、館山市政が当面している緊要と思われる七点に絞ります。残余の市政上の問題点は、五十四年度当初予算案をはじめとする諸議案の審議にあたって改めて質問申し上げます。所存であることを申し添えまして、以下順次質問申し上げます。どうか半沢市長には簡明率直にお答えをわずらわしいのであります。

質問の第一点は、八十億二千三百八十七万六千円にのぼる昭和五十四年度歳入歳出予算額はその見込みが過大ではないかということとあります。前年対比で、市長は施政方針の中でもお述べになつておるとおり三〇・七％の伸び率を示している。三〇％を超える伸びはそれだけ豊富な事業を見込んでいることを物語つていると言えはそれとおりでしょう。しかしあの放漫財政といわれた本間市政においても三〇・七％の伸び率を示したことはなかったと思うのであります。

そこで、まず過去十年間、つまり昭和四十四年度以降の当初予算伸び率をお示しいただきたい。そして、合わせて三〇％を上回ることに ついての御所見を承りたいのであります。

次いで、私は市債が館山市の財政をパンクさせるおそれはない

かと憂慮し、昨年も質問いたしました。五十年年度当初予算額の中で占める市債の割合、つまり構成比は五・〇三％であり、五十一年度当初で六・一三％、五十二年度当初で六・七八％、五十三年度当初に至つて九・五％に一挙にはね上がったことを憂いて私は質問したわけでありますが、市債はやがて公債費という歳出となり、やがてツケは将来にわたつて市民の肩にのしかかってくる。

ところが来年度はその構成比が一挙に一五・八一％に大きくはね上がっている。金額にして前年度が五億八千四百三十万円だったのが一挙に六億八千四百十万円もふえて十二億六千八百四十万円となつてゐるではありませんか。市債に関する率直なるお考えをお聞かせ願います。

さらに申しますなら、過去三年間にわたつて一時借入金の限度額を当初予算において四億円と定めて参つたにもかかわらず、来年度にはその倍額の八億円としようとしてゐるではありませんか。市債という名の借金は前年の二倍をはるかに上回つて、しかもなおそれでも歳計現金に不足を生ずるおそれがあるといつて二倍の一時借入金最高額を定めようとするのは、財政運用上いかなるものでありましょうか。いささか疑義を生ぜざるを得ませんが、この点についての御所見を伺つて、次の質問に移ります。

第二点の質問は、市内の商店街の体質を改善し、近代化を推進して、仮に大型店舗が進出してきようとも十分対抗し得るよう、駅前の再開発を都市再開発法がらみで断行することが急がれてゐるのではないかとあります。私は一再ならずこの点に関する提言をいたしております。でありますから、私の真意が那邊にあるか当局としても十二分に御存じのことと思いますが、今後

の問題として一体市長はどうなさるおつもりか、簡明にお答えをいただきたいのであります。

質問の第三点は、将来の都市計画事業を推進するためには、どうしても土地の買収行為が伴うことになるでありませんが、買収しつ放しというわけにはいかない、代替地を提供してあげることも考慮に入れるのは当然かと思われませんが、まず第一に都市計画事業を具体的にどのよう推進しようとしておられるかについて具体的に伺います。

次いで、推進しようとなさるなら、具体的に代替地を確保しておかなければならないはずであります、その見通しについて伺います。

第四の質問は、学区の再編成による新たな統合中学校についてであります、現行の市内の七つの中学校——つまり一中、二中四中、西岬中、房南中、神余中、豊房中では学級の規模があまりにも格差が大きく、教育の質的内容が教科別に満たされないという重大な問題に当面しているからこそ統合案が誕生してきたと私は理解しております。そこで伺います。この七つの中学校の教職員の配置の現況についてであります。つまり教科別の専門教師の配置状況をお聞かせ願いたい。

次いで、現況で各学校別、教科別のウィークポイントというか、どうしてもこの学校ではこの点を勢力しても、教師のいまの力をもつてしてはいかんともし難いのだということがあつたら、具体的に列挙してもらいたいのであります。

続いております。先ほど同僚一八番議員君との間の質疑とやや重複いたしますが、別の観点から伺います。

いまの統合案によりますと、一中は現行のとおりとして、二中学区の再編成による学校統合が行われ、さらに三中という統合中学校を、学区の再編成による学校の廃合を行なうとするもので、校舎の位置は現在の県立館山高等学校の敷地とするという計画であります。小規模中学校の子弟にとつて質的に教育内容が向上するとすれば多少の不便は忍んでも歓迎すべきであらうと私は考えます。教育の理想的あり方から統合を進めるとするならば、何がゆえに六学級しかない房南中学校だけをそのまま放置しておくのでありましょうか。私は地元住民の意思とか希望とかという問題を論ずるのではなく、純粋な教育的見地に立脚して子弟の教育を憂え、その理想的なあり方を追求するとするならば、統合中学校のあるべき姿を求めることを是とするならば、房南中を統廃のらち外におくことをもつて非とせざるを得ないのではないかと思われてならないのであります。この点どう考えておられるのか。純粋に教育的な見地から房南中を統廃のらち外におくことを是とするのか非とするのかについてだけ簡明にお答え願いたい。

また、館野、九重地区からの通学者に対し、交通事故から守るために自転車専用道路を設けたらどうかと考えますが、当局の御所見を伺つて次の質問に移ります。

第五は、農業基盤整備事業を推進したために副次的な産物として地下水が異常に低下し、そのために生活用水である井戸水が枯渇し、日常生活に重大な脅威を与えているという問題が市内高井地区全域にわたつて惹起され、これが解決のために早急に市水道と三芳水道企業団の水道とをその区域をそれぞれ拡張しなければならぬという点についてであります。もとより農業基盤整備事

業にはいろいろな批判がありましようが、しかしながら農村部にあつてはそれなりの評価もあるところであります。不平や不満を持ちながらも広範囲にわたつて基盤整備、構造改善事業が進んでいるゆえんのものは、この評価があればこそでありましよう。高井地区も二カ年継続事業をもつて住民の協力のもとに計画が進行しているわけでありますが、ただいま御指摘申し上げましたとおり井戸水が枯れてしまつたという現象が随所に見られる。当局はこの事実を承知しておられるかどうかを伺ひます。

続いて、この地区が将来にわたつて生活用水を井戸水に依存してよろしいとお考えになつておられるのかどうかをお聞きします。解決策としては、市水道の区域を拡張し、三芳水道の区域と接合させる方法を可及的速やかに具体化させる以外に方法がないと思われませんが、この点に関する当局のお考えを承りたいのであります。

次いで、第六の質問に移ります。し尿処理場の将来の問題についてであります。私は過去におきまして何回となく発言しております。それはこのし尿処理の問題が私どもの環境汚染や公害の発生、あるいは人命にかかわるおそれがなきにしもあらずだからなのであります。現在の藤原の処理場にありましても、初期のころ、事務所において処理場で発生する有機ガスを利用して湯茶を沸かしていたために、健康を害して作業員がぶつ倒れてしまつたという事実があるではありませんか。こういうことを考えるとき、窒素の処理はたして完全に行われているのか、磷についてはたしてだいじょうぶか、等々について重大な関心を寄せざるを得ないのであります。

そこで、具体的に質問申し上げます。市はし尿処理場予定地として出野尾地区から長田地区にかけての土地に白羽の矢をたてて地元と折衝しておりますが、まず取得しようとする用地の面積をお示しいただきたいのであります。

それから、し尿処理施設の機種につきましては、私の質疑に昨年答えられたことがありますから、アタカのＩＺエアレーションシステムを採用されることに決定したと理解しており、その事自体にはあえて触れませんが、青森県五所川原の処理場の例を見ますと、前回も質問しましたが、ＳＳで契約の保証値が不検出になつていたのであります。アタカはＳＳが不検出ですよ、検出されませんよと契約を交わしたのであります。しかし現況は視察してわかつております。○・七ＰＰＭを検出しているんです。これは契約に反している。この点をどのように考えているか御説明を承りたい。

それから、ＰＮ－トータル窒素についても三十ＰＰＭという契約が交わされているながら、現況の、現場の数値は百をきるといふことになつております。これも契約に反しております。この点をどんなふうに考えておられるのか御説明を承りたい。

また、脱窒素について学問的な説明がなされていないというのが学会の定説になつているというふうに私は理解しておりますが、前回の質問では脱窒素が行われているとお答えになられた。もつともこの答弁は市長からの答弁ではなかつたのであります。学問的に説明されているとするなら、その根拠をお示し願いたい。

次いで、多量の冷却水が必要になると思われるが、どこから取水されるのかお聞かせ願いたい。

また、場内散布の方法をとるおつもりか、その場合の必要面積はどの程度でありましょうか。それを参考のために伺います。また、もし場内散布しない場合の必要面積はどの程度かについても伺つておきます。

続いて、県の指導の方向は場内散布方式に向かつているのでありましょうか、お聞かせいただきます。

最後に伺つておきたいことがあります。私の調査によりますと、この機種は厚生省の補助対象になる機械部分が他の機種に比べるとうるさくないのであります。そうすると、厚生省からの補助金が増えるのであります。したがって市の一般財源の持ち出しが多くなつて、館山市財政に圧迫を与えることも考えられると思われするのであります。御所見を承りたいのであります。

合わせて、契約の時期はいつか。契約にあつて保証期間の設定は何年とするおつもりかを伺つて、最後の第七点の質問に移ります。

館山市内には、言ひなればアンバランス、不公平が見られます。その一つは、市内に住んでいながら江田、広瀬、正木などの方々のお宅の電話番号に見られるではありませんか。館山二局、三局あるいは七局、八局の何々番ではなく、三芳局——つまり〇四七〇三六の何々番とかけなければならず、これでは全く三芳村住民と等しいと言わなくてはならないではありませんか。市民等しくという公平の原則からすれば全く不公平というはかありません。しかしながらこれは電電公社の所管事項で、市政と直接関係ないので発言するにとどめておき、質問するものではありません。

質問しようとするのは、同じ市民でありながら差別を受けている笠名地区の無番地に住む多くの住民であります。網走番外地ということを聞くこともありますが、館山市内のどの地区でもどこそこ何番地と行政地区は示されているにもかかわらず笠名にだけ無番地があり、ここに百戸あまりの人々が住んでいるに至つては差別もばなはだしく、行政の怠慢のそしりを免れないのではないのでしょうか。この点いかにお考えか、お考えを承つて質問を終わります。

私は、過去四年間、半沢市長が私の提言を前向きに虚心坦懐に取り入れ、市政の前進を見たことをいささか評価していることを付言いたします。法人市民税の不均一課税実施による税収増についてしかり、心身障害者、児の福祉作業所の建設にしたり、生活保護者への銀行振り込み送金の実施検討にしたりであり、このほかにも分収林計画の実施なども挙げられます。

以上、感慨を込めまして申し上げ、御答弁によりまして再質問いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十九分 休憩
午後一時 五分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後出席議員数二十四名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 石井輝久議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、五十四年度歳入歳出予算額八十億二千三百万余円は過大見込みではないかという大きな御質問でございますが、順次御質問の内容につきましてお答えをいたしていきたいと思います。

第一点は、昭和四十四年以降の当初予算の前年対比の伸長率は幾らということでございます。四十四年三二・四九％、四十五年二一・三四％、四十六年一七・一五％、四十七年一九・一四％、四十八年二二・四八％、四十九年三八・八八％、五十年一一・九四％、五十一年一・四二％、五十二年一五・〇五％、五十三年一七・五六％、本年が三〇・七三％でございます。

五十三年度当初予算と比較しまして三〇・七％の伸長率についてどういふふうに考えるかという御質問でございますが、本議会におきまして提案、審議をお願いいたしております五十三年度補正予算との比較をいたしますと、五十四年度は九億四千六百万余円の増加となり、伸長率も五十四年度の地方財政計画の伸長率を少し超える一三・三八％になるわけでございます。特に五十三年度補正予算対五十四年度当初予算比較の中で起債が三億八千万余円の伸長でございすけれども、これは五十四、五十五の二カ年で実施される予定の衛生センター建設事業や第三中学校校舍新築事業等の大きな事業が計画されておりますので、それに伴う起債がこの二つの事業だけでも六億四千二百八十万円も予定されておりますのでございすので、特に不健全だというふうには考えておりません。

第三点が、市債が市財政を破綻させるおそれがないかという御質問でございますが、起債は御案内のようにその団体の財政状況を勘案の上、事業ごとに許可される仕組みになっておりまして、

その許可制限比率は二〇％でございます。本市の場合五十二年度決算で六・三％を示しております。県下二十六市中低いほうから四番目にあるわけでございます。したがって、今後ともこの比率を考慮しながら財政運営を行つていきたいと思つておりますので、健全財政運営は可能であるというふうに考えております。

第四点は、一時借入金金の限度の問題でございますが、今回八億円に増額をいたしましたわけでございますが、これは五十四年度事業では特に衛生センター建設事業六億六千四百万円や第三中学校の校舍新築事業三億二千八百万円等がございまして、前払いや出来高払いを考えますと一時的に資金が不足することが予測されるわけでございます。また特定財源中市債の許可決定が年度末になりますので、その借入れのほとんどが出納整理期間中に入金されるため、特に三月、四月にかけて資金不足が予想されるためお願いいたしました次第でございます。

御質問の第二点は、市内商店街の近代化と駅前再開発との関連をかんずく都市再開発法とのからみについてという御質問でございますが、再々御提案をいただいておりますとおり、駅前再開発というのは大変重要な問題でございます。施政方針の中でも申し上げましたとおり、大型店の出店も加えまして、都市間、特に商圏間の競争激化を現在招いている状況でございます。館山市商店街を軸とする都市構造を検討することが今後の課題と考えておりますので、調査、研究のためプロジェクトチームを編成いたしまして、先般の館山海浜開発診断報告、また公共下水道問題等合わせ総合的な検討を行いまして、自然を生かした魅力ある近代的都市実現のために努力いたしたいと考えているわけでございます。

御質問の第三点、将来の都市計画事業推進のための代替地確保の見通しということでございますが、都市計画事業を実施していく場合におきまして、事業の用に供する公共用地の取得は工事に先立つて行われますが、これが円滑に行われるか否かによつて事業の進展は大きく左右されるわけでございます。この公共用地取得の交渉過程におきまして関係者との話し合いの中でやむを得ず代替地が求められる場合も出てくるかと思われまます。このために事前に代替地を確保しておくことは事業推進の上で大きな効果をもたらすものと思われまますので、都市計画事業を推進していくための代替地を確保するよう今後とも意を注いでまいりたいというふうに考えております。

なお、事業実施の中でも直接事業の用に供されるものについては代替地取得も認められますので、このような方法も取り入れてまいりたいと考えております。

市としては、事業実施にあたり、でき得る限り対応策を講じ、関係者の納得と協力を得て、事業を進めてまいりたいと考えているわけでございます。

第四点、学区再編成による統合中学と房南中学については、教育長のほうより御答弁申し上げます。

第五点、農業基盤整備事業の推進と地下水低下による生活用水への影響と水道拡張との関連についてでございますが、ほ場整備事業の推進に伴い地下水が低下しているところがあるということとは伺っております。井戸水を将来にわたつて生活用水に利用することについては、それぞれの水量にもよりますので一概には言えませんけれども、今後の水道との関連もございまして、検討し

ていきたいと思ひます。水道の拡張につきましては、三芳水道企業団との関連もあり、また市水道の配管との関連もありますので、今後慎重に検討いたしていきたいと考えます。

第六点、し尿処理場の将来の問題点についてでございますが、今回取得しようとしております用地の面積につきましては、台帳面積で約十二万三千平方メートルでございます。

青森県五所川原の施設におきます8日あるいはトータル窒素の契約と実際の数値についてのこまかい御質問がございましたけれども、8日に対する国の規制基準は二十倍希釈で七十PPM以下でございます。このことからしますと、無希釈で〇・七PPMというのは全く問題ない数値と思われましても、不検出という契約に対してはこれは契約として適当でないというふうに考えます。

トータル窒素についても、従来の方式では四〇％ないし五〇％の除去しか望めないものが九五％以上除去されているわけでございますので問題はないと思ひますけれども、契約と実際の数値の差の出ることはあまり適当ではないというふうに考えます。

脱窒についての学問的な解明についての御質問でございますが、し尿中の窒素はほとんどがアンモニア性窒素でございます。一般的にはし尿中へ酸素を供給することによりアンモニア性窒素を亜硝酸性窒素、さらには硝酸性窒素に酸化させまして、次に酸素欠乏状態の場を与え、亜硝酸または硝酸の酸素を脱窒素菌に吸収させ、窒素分は窒素ガスとして大気中に放出し、脱窒が完了するといわれております。E2方式においても一次処理の中でこのプロセスにより窒素除去が行われているように理解しております。

けれども、最終的には果及び厚生省での審議に頼る考えでございます。

多量な冷却水が要するという御質問でございますが、冷却水は循環方式でございまして、蒸発分の補給程度で済むものと考えております。そういう意味で心配はございません。

場内散布するのなかうかという御質問でございますが、またその場合の必要面積はという御質問でございますが、稼働予定日までに放流先についての関係者の理解が得られない場合には、理解の得られるまでの間は散水方式で運転せざるを得ない状況にあるわけであります。しかし建設費及びランニングコストからみて放流するほうがはるかに経済的であり、またそういう意味で稼働までになんとか放流についての了解を得べく最大の努力をしていく考えてございます。

散水する場合の必要面積は、広ければ広いほど一平米当たりの散水量が少なくていいわけでございますが、一日の最大散水量を百二十トンとした場合、約八万平方メートル程度と考えております。また、散水しない場合の必要面積については、一万五千平米から二万平米が適当な面積とされております。

処理水についての果の指導の方向はという御質問でございますが、先ほども申し上げましたように建設費、ランニングコストの面から、また放流しても全く二次公害の心配のない処理水質でございますので、放流するための努力を続けるべきであるという指導を受けております。

補助対象部分が少なく、一般財源の持ち出しが多くなるのではないかという御質問でございますが、市といたしまして調査した

限りではそのような事実はありません。むしろ建設費が他方式に比べ安いので実際の建設費と補助対象額との差が少なくなっているわけでございます。

契約の時期及び保証期間につきましては、契約の時期は補助内示の出た時点で契約をいたしたいと思ひます。またその保証期間は三年を考へております。

第六点、笠名無番地の住居表示についてでございますが、笠名地区の市営住宅は昭和三十五年度から四十二年度の間、及び五十二年度に国有地を借り受けまして合計九十戸を建設いたしました。建設当時は大蔵省所管の国有地で無番地でございます。その後四十二年度までの土地については払い下げを受け、昭和五十一年に登記を終了いたしました。市営住宅の地番はそのまま現在に至っております。登記により地番も設定されましたので、住宅居住者と話し合い、早急に地番を変更してまいりたいと考へております。なお、現在国有地所在の市営住宅につきましても大蔵省と連絡を取り表示登記をお願いしてございます。

以上、答弁を終わります。

(教育長安田豊作君登壇)

○教育長(安田豊作君) 第四点の学区再編成による統合中学と房南中学についての御答弁を申し上げます。

質問の要旨は四つあるように私受け取りましたが、第一が教科別に専門教師の配置状況はどうなっているかということでございますが、専門教師の配置状況を見る見方として、免許状を持つておりますけれども、その免許状ではどうしてもカバーできない教科の時間が出てくるわけでございます。それを免許外の時間、こ

れは仮免許状を、許可証を受けて指導している時間でございます。これはしたがって不得手な授業をしなければならぬという時間でございます。この状況を申し上げてみたいと思ひます。

現在、館山市の七中学の一週間の授業時数は総計で二千八百七十三時間あります。そのうち免許外の指導の時間がどのくらいあるかという四百十一時間行われております。パーセントにして一四・三％でございます。

これを学校別に申し上げますと、一中が一分母が総時間数になります。三百七十二分の四十四、四十四が免許外の授業、パーセントにして一一・八％。二中が九百三十分の百二十八、一三・七％。西岬中が百五十五分の七十、四五・一％。房南中が百八十六分の四十五、二四・一％。神余中が九十三分の四十四、四七・三％。豊房中が九十三分の十九、二〇・四％。四中が百八十六分の六十一、三二・七％。一中と二中が適正規模として近いわけで、大体一〇％前後で補なわれているのに対して、西岬中、神余中のように五〇％近いというような数が出ております。ただ豊房中だけが何ていいますか配置がうまくいつておりまして、二〇％内におさまることができましたが、他の中学校はそういうふうな点で非常に不便を感じているというように言えると思ひます。

どんな教科が館山市の中で――二番目の、現況ではどう努力してもいかんともし難いという問題についてのお答えになるかと思ひますが、国語は八十八時間、それから数学が百三時間、技術家庭科が五十時間、これは許可免といひますか、正規の免許状以外の先生に指導されている時間。完全に免許の先生が教えているのは音楽、英語、こういう教科はなかなか許可免をもちつてもほか

の人に代用できない教科でございますので、そういう先生がそろえられる、こういう先生をそろえる限り他に不自由を感じている、こういうことになろうかと思えます。

それから、もう一つ、クラブ活動でございますけれども、クラブ活動は子供の好みに応じて活動させて個性を伸長させるという学習の場です。したがってこのクラブは、いろいろのクラブがあつて自分の個性にあつたものを選んで活動できるという体制がとられることが望ましいわけでございます。それが教で申し上げますと、運動クラブだけとつてみましても、一中が九クラブ、二中が十一クラブ、西岬中が五クラブ、房南中が八クラブ、神余中が二クラブ、豊房中が四クラブというようなことで、小規模の学校では子供たちは自分の好きなクラブに入つて活動せざるを得ない。ただ房南中学は八クラブという数の上からもいえますし、剣道、柔道というよりな面で活躍しているのは御承知のとおりでございますが、こういう武道のような小人数でもできるクラブについては小規模でも実績を上げることができるとすけれども、球技のクラブというのがこういうところではどうしても捨てられにくい、こういうことにならざるを得ないというのが現況でございます。

それから、第三の房南中を今度の統廃合のらち外におくことは是非ですが、お説のとおり純粋教育論の立場からは房南中は二百名足らずの六学級で編成してありますので統廃合のらち外におくわけにはいかないことは当然であります。しかしこの学校には過去に歴史がありまして、先ほども申し上げましたけれども、統廃合審議会の考え方は房南中を含めて三校案をもつたのであります。

けれども、房南中が危険状態になつたためにどうしても建てかえなければいけないという時点にこれを建てかえましたので、この際には議会の承認を得、委員会としては四校案に変更したと、こういうふうになつたと思えますが、当時は房南中が九学級編成でありましたのでどうやらしのげた、こういうことでございしますが、現在のまま推移すればいずれ考え直していかなければならぬ時代がくるんじゃないかと思えますけれども、なにしろいまは木造ではありますけれども、房南中学は中学としての整備は一番整つた学校になつております。したがつてこれが老朽化する時点まではいまのままいくという考え方に私どもは立つてゐるわけでございます。

それから、館野、九重地区の自転車通学に対して、通学路の安全確保をどうするんだという御指摘に対して、自転車通学の安全確保については各所の座談会で要望がありますので十分考えております。館野、九重地区ではあそこの原の基盤整備事業が行われております。こういう事業と関連を持ちながら、通学路の安全確保に努めていきたい、こういうふうに考えております。

(「専門教師の学校別の配置状況」と呼ぶ者あり)

○教育長(安田豊作君) 配置状況は、先ほど許可免がこういう状態になつてゐると申し上げました。その逆が専門教師が配置されている、こういうふうにお答えいたしました。ですから一中で言いますと三百七十二時間専門教師が欲しいところを四十四時間は専門教師で埋めることができない、こういうふうにお答えいただいて、ほかの三百二十八時間は専門教師によつて指導されてい

る、こういうことで御納得いただければありがたいと思っております。

○一四番（石井輝久君） 再質問いたします。

まず第一点の伸長率、市債、それから一時借入金等五十四年度予算全体にわたる財政の問題でございすけれども、私はさつき質問するときに過去十年間の伸長率のデータを求めたわけでございます。ただいまお答えがございました。四十四年になるほど三二・四九％の伸長率を示した、これは高度成長の最盛期といひますか——の時代であつて、今日の経済状態とは合致をしていないことはもちろん申し上げるまでもないことであります。四十九年は三八・八八％という御説明でございましたけれども、これはちよつと私の手持ちのデータが間違つてゐるのかもしれないけれども、私にはそれほどの成長率を示したとは考えられないんです。四十九年は三八・八八％とおつしやいますが、四十九年はずつと低いはずの感じがしますが、それはいいでしょう。いづれにしても、五十四年度はただいま御答弁でもありましたように、衛生センター、学校建設等々いろいろな施策が折り込まれております。市民の要望に巧みにこたえるような形で予算編成がされてゐるようによろしく考へております。この点については五十四年度予算の審議にあたりまして改めて質疑をいたしたい、そのように考へまして、この点は質問を打ち切ります。

それから、第二点でございますが、駅前再開発、それから私がかねてから申しております都市再開発法による駅前の整備、市長は前に私の質問に対する答弁で商店個々の努力にゆだねたいというふうなお話でしたが、だんだんアクセントが違つてきてゐるよ

うに、ニュアンスが違つてきているように受けとめてゐるんです。いま商工会議所のほうで去る十二月議会で私も可決した調査の作業がおそく進んでゐると思ひます。その作業の中におそくは駅前再開発という問題が含まれるであろうというように考へますので、これは年度内の事業ですから、時期としては、ですから年度内に完成されたら、それを見ましてもう一遍議論をしてみたいというふうに考へまして、ひとつ前向きに勇氣をもつて取り組んでいただきたいということを要望して、この点は打ち切ります。

将来の都市計画の問題でございすけれども、私は都市計画事業を具体的にどう進めるおつもりかという質問であり、次に代替地の確保、具体的にどのようない通しかというように二つに分かれておりますけれども、都市計画事業は将来の問題として組上がつてくる、線引きは一応終つておりますので、ですから都市計画事業を具体的にどう進めるかというのは、大体めどとして昭和何年ごろに着手されるおつもりかということと、それから具体的に代替地の確保の見通し、確保するように努力してゐるといふ御答弁でございましたが、どこらにどの程度の面積のものを御用意される努力をしておられるのか。これにつきまして簡明にお答えを願ひたいと思ひます。

それから、基盤整備による、地下水の低下による井戸水の枯渇の問題。これは一般論としてお答えになられたようですが、私の質問は高井地区全域にわたつて——地域の指定をした御質問でございす。今後慎重にということでございますし、高井地区として答弁されたんでございすし、事実上は承知しておられるというところでございます。ですから井戸水に依存して将来いいと思

うかという質問に対しては一概には言えないということでございます。しかしそれでは現況を、事実を承知しているということにはならない。井戸水をくみ上げることができる井戸で二十センチ三十センチくらいに低下している、行つてみればわかるんですから、その事実を承知してないということになりますよ。ですから承知しているなら早急に、井戸水にたよつていられないという現況を正しく認識しているんなら、井戸水に依存していいと思うかという質問に対して、一概に言えないという答弁は返つてこないはずなんです。ですから事実の認識を正確にされることが第一点と、それからそれに対応を的確にされないと、せっかく基盤整備はよくできた、しかし住民の日常生活は井戸水がなくなつてもらい水をせざるを得ない、こういうことになります。ですからもうちよつと具体的に御答弁をいただきたい。

私は、市の水道と三芳水道のドンキングとわざわざこちらから提示しているんですから、これは百五十ミリの配管がどこまできているか、一方で作名からきている市水道はどこまできているのか、中で七十五ミリはどこまで、具体的に御答えいただくかないとかみ合いません。ですからドンキングして百五十で全部つなげて、七十五ではたらいたらなつてしまいますから、そのためにとりうるかという質問なんです。お分かりになると思います。再質問いたします。的確にお答えをいただきたいと思ひます。

それから、六番目のし尿処理場についてでございます。それそれ御答弁いただきました。取得しようとする面積十二万三千平方メートル、しかしながらもし場内散布しないで放流だけでいくならば一万五千平米ないしは二万平米あれば足りる。しかし市は十

二万平方メートルを取得しようとしている。しかも場内散布の場合八万平方メートルあれば足りる。にもかかわらず十二万平方メートルの用地を取得しようとしておられる。私はこの差額が不要不急の土地の取得になりはしないか、こういうことを考えるんです。ですから必要面積を取得すればいいんですから、最大限、場内散布するとしても八万平方メートル、あとの三万平方メートルは不要の土地、私の理解の仕方はそういうような理解の仕方なんで、この点に対してはもう一遍お答えいただきたいと思ひます。

それから、先ほどの御答弁で、青森県の五所川原の88の不検出、契約ではなるほど検出しない、にもかかわらず現況では○・七PPM検出されている。市長の答弁は契約は適当でないという御答弁をいただいております。それからトータル窒素につきましても、三十PPMの契約にもかかわらず現況では百をきるといふ現況です。それからいまの御答弁によりますと、この点どう考えているかということに対してはあまり適当でないというお答えでございますけれども、九〇%以上が除去されているからというお答えですが、先方の説明を聞いてそのまま作文されたんだと思ひますから、それはその御答弁でよろしゅうございます。よろしゅうございますけれども、脱窒素は私どもの調査、あるいは研究したところによりますと、脱窒素のあの装置では化学反応が超こりにくい、したがつて脱窒素が学問的に完全に解明されていない、私どもはこういうふうな理解の仕方を依然としてしているわけなんです。ここにもそういうことを裏づける日本環境衛生センタ―というところのデータがございます。ここにもそのようなことが記載されておるわけでございます。「今後の問題として、本試

験施設において消化、脱窒素が進行していることが推測されるがその除去機構の解明及び除去率を高めるための条件の検討が今後の課題と思われる。」、はつきり文書化してございますが、そういうわけで非常に不安に感じるわけです。

そこで、再質問しますが、個々のアルカリ度は大体どのくらいか、これは脱窒素と密接な関係がございますから。それからあの場合のE2のバーハーはどのくらいであるか。これは一つの化学反応の目安になりますから、これをお答えいただきたいと思います。

それから、冷却水が循環だから心配ないというお答えですが、完全に一〇〇%の循環ということはあり得ない、だんだん減っていくわけです。その補給はだいたいようぶだというんですけれども、あの地区から取水するんじゃないで、どこから運ぶんですか、その冷却水についてのお答えをいただきたいと思います。私の質問に正確にお答えになつておられない。お答えいただきたいと思っています。

それから、場内散布か、放流かということで、県の指導の方向はどつちの方向かというのと、二次公害等々から放流の方向で県から指導を受けている。当然です。前から指摘しているように、あの方式で完全に窒素、その他の除去の確信が持てない。つまり私どもの言い方をしますと、まだテストの段階であつて完全なプラントとは容認できない。ただし厚生省は部分的にもちろん認めましたが、私どもは不安を感じてゐる。これは私が不安に感じているということだけでよろしいです。ただ果が場内散布することをやめなさい、放流しなさいということは、場内散布しますと除去されない化学成分が浸透していつてやがて公害の発生源になりや

しないかということをおそれてそういう指導をしているんですよ。ですからこの点確信が持てるのかどうか、もう一遍お答えをいただきます。

それから、契約の時期は補助の内示があつてからということで、当然でございましょう。それはいいです。契約の保証期間三年間ということでございますので、その点も了承いたしました。

それから、合わせまして大腸菌群は——先般御質問申し上げましたが、現地の所長が要求を満たすという答があつたからだいじようぶだということですが、私どもの視察では大腸菌群は調査をしてない、不安を感じる。所長の口頭の説明ではわかりません、現実に大腸菌群を測定してないんですから。現地で所長はだいじようぶと言つたつてやつてないんですから。ですからこの点不安です。E2方式は現地ではやつてない。ですからもう一遍この点お答え願いたいと思います。

それから、補助対象の件ですが、市の調査ではそういう事実はないと言いますが、しからば伺いますが、厚生省は補助対象としてE2のどのフロアとどのフロアを対象にしているか、抽象論じやなくて、これとこれが補助対象であるということをも具体的にお示しをいただきたいと思っています。

それから、笠名の無番地の問題。これはいまの御答弁ですと、昭和五十一年に登記を完了してた。登記を完了してたらなぜ地番を定めなかつたのか、この点を再質問いたします。しかし、早速地番を定めるようになされるんならそれで結構ですが、五十一年に登記を完了したら、そのときになぜ地番を定めなかつたのか、ちよつとこれ怠慢じゃなかつたかなという感じがするんですが、

地番が生まれればいいんですから、前向きに、いつごろ地番が設定されるのかをお答えいただきたいと思っています。

それから、教育長さんのお答えでございますが、私はまず第一に、はつきりというふうな質問をしているんです。「この七つの中学校の教職員の配置の現況についてであり、つまり教科別の専門教師の配置状況をお聞かせ願いたい。次いで、現況で各学校別、教科別のウィークポイントというか」云々、このように質問しているわけなんです。したがって、私は一中が一・八％、二中が一三・七％、以下これこれ、これも答弁の一つの方法としてはあるでしょう。しかしこれじゃわからない。私は一中に英語の先生が何人、二中に何人、こういうように教科別に数学は一中で何人つくんだ、国語で何人、理科で何人、家庭科で何人、社会で何人、こういうような、それで判断していこうとしたわけです。漠然と三百七十二時間やつて四十四時間が仮免でやつているという、これだけじゃどの教科にウィークポイント、弱点があるのかつかめない。総体の時間数で仮免はこれだけです。では、どの教科が弱点なのかつかめない。私の質問の意図は、学校別にどの教科がどうなっているのか、この点を把握したかったので、もう一度この点は簡明にお答えを願いたいと思います。

それから、房南中のうち外ということですが、御説明によつて事情はよくわかりました。しかし、入れ物をせつかくつくつちやつたから、教育に確信は持てないけれども便宜的に入れるものがあるから房南中の生徒は残す。あとは教育の理想に向かつて統合していく。房南中はせつかく入れものができちやつたから、しょうがないから、将来の問題としてあとでやる。そのように聞かえ

ます。これじゃ教育は不公平、アンバランスになりますよ。ですからそういう点もう少し実のあるお答えをいただきたいと存じます。

それから、先ほどの御答弁ですと、子弟の通学の安全確保のために云々というお答えですが、結構でございます。一般論ですが、館野、九重地区で自転車道——車の通行は禁止する自転車専用道路、これを考えたかどうかという具体的な質問でございました。この点ひとつお答えをいただきたいと思っています。

以上、再質問いたします。

○市長（半沢良一君） 農業基盤整備事業推進に伴う地下水の低下であります。先ほど答弁申し上げましたが、地下水が低下しているという実情があることを聞いておりますが、高井地区については現在まだ個々について調査中でございます。必ずしも高井地区全部がそうではないように聞いておりますので、それぞれの井戸によつて先ほど御答弁申し上げましたように水量が違ふようでございますので、一概には申し上げられない、そういう御答弁を申し上げたつもりでございます。

それから、三芳水道との一体化ということでございますが、これにつきましても給水区域等のいろいろ法的な問題もございまして、あそこは御案内のように三芳水道の給水区域になつておりますけれども、経済的な面からいくならば市水道に近い面もございまして、そうしたこともいろいろ勘案して今後検討いたしたい、そういうふうに御答弁を申し上げた次第でございます。

○助役（小倉澄男君） し尿処理場の将来の問題点ということに関しましての再質問にお答え申し上げます。

まず、一点の不要不急の土地を取得するのではないかとということでございますが、ただいま申し上げました八万平米とか、そういうものは最小限の必要面積でございます、あくまでも散水をしていく上については十二万三千平米程度が適当だということでございます。ということは、やはり処理場をつくっていく上において環境整備とか、そういういろいろなことにやはりこのくらいの土地が必要であるということでございます。

それから、その次の二番目の脱窒素が学問的に解明されていないのではないかと御質問でございますが、私たちの解釈は先ほど市長からの答弁にもございましたように、最終的には厚生省、県の認定をもつて脱窒を認められているんだというふうに解釈いたしておりますが、参考までに申し上げますと、本年の十四号の環境技術会誌がございまして、日本廃棄物処理技術管理者協議会からの発行でございます。その中で、厚生省の生活環境審議会廃棄物部会のし尿処理技術専門委員であります原さんという方が、エス方式についての脱窒の効果につきまして推奨してあるわけでございます、その調査の中には、いわゆる窒素の除去率が安定して高率で除去されるというようにも言われてございます。そういうようなことから、さらに現状におきましては、最近の五所川原等の調査におきましては、九〇％以上の脱窒のデータが出ておるといふようなことから、脱窒については完全にといいいくらい行われているというふうに解釈している次第でございます。

なお、ベーパーでございますが、アタカにおいては五・八から八・六ぐらいのベーパーを生じておるわけでございます。

それから、冷却水に関しましては——これは循環冷却水とさらに生活用水でございますね、職員が水を飲んだりする。合わせまして一日使用料が七トンくらいというように計算をしております。その水はたしてどこから求めるかということでございますが、これにつきましては現地に井戸を掘りまして取水していきたい、そういうふりを計画しております。

それから、四番目の散水に対して無公害の確信があるか。さらに県の指導は公害が出るだろうから放流するようにしろというように御意見でございますが、われわれは一応——先般も申し上げたとおり、環境コンサルタントを通じましてアセスメントをした結果、公害はないという確信をいたしておりますし、さらに県といたしましてわれわれに放流を推奨したということは、あくまでも施設に厚生省基準以上のものをつけること自体がむだなことではないか、それならば、放流するならば日常の経費も少なくていいんではないかというような面からの指導でございます。

それから、さらに大腸菌群でございますが、やはり五所川原では検出していないというお話かも知れませんが、私どもはあくまでも基準以下——三千以下の大腸菌群を保つような業者と契約をいたしていきたいと考えております。

補助対象でございますが、現実には補助は七月か八月ごろに決定するわけでございますが、現状におきまして調べたところでは総事業の、本体事業のうちの三次処理、高度処理——活性炭の処理、滅菌、この部分については補助対象にならない。前処理——生し尿、貯留槽、反応槽、分離槽、遠心分離装置が一次処理、二次処理といったしまして凝集沈澱槽、A B F、砂ろ過までが二次処

理でございまして、この二次処理までが補助対象の範囲でござい
ます。ただ活性炭につきましては、8日等の環境基準の規制から
いつても、8日を除去する必要はないんだということで補助対象
にならないということでございます。

○教育長（安田豊作君） 教科別専門教師の配置状況でございま
すが、ここにありますけれども、逆に答えさせていたいただきたいと思
います。

一中は二十三人おりますけれども、家庭科の教師が不足してお
ります。一人。二中は四十九人教員がおりまして全教科をもつて
おります。西岬中は九人の先生がおりまして数学、理科、美術の
教師が不足しております。房南中は十二人おりまして美術と技術
が不足しております。神余中は七人先生がおりまして国語、数学
美術、家庭、保健体育、これが不足しております。専門教師がお
りません。豊房中が七人おりまして美術、保健体育、技術、四中
が九人おりまして数学、美術、家庭が不足しております。

房南中学をらち外におくのは、さつき申し上げましたとおり、
純粹教育論からいけばいけないことだと私も考えております
が、一つは先ほど申し上げましたように施設の問題と、六学級で
しかもそれが館山市に一つであるということなら、教員配置その
他でかなり負うことができるんだ、こういう見通しを——考えら
れるんじゃないかという見通しを現在の房南中からもつておりま
すが、そういう点で……。

四番の自転車道路については……。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一四番議員君の質問を終ります。
暫時休憩いたします。

午後二時 三分 休 憩

午後二時三十三分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一六番議員安西益男君。

（一六番議員安西益男君登壇） （拍手）

○一六番（安西益男君） 私は三点について御質問申し上げます。
要旨のみを申し上げますのでよろしく願ひ申し上げます。

最初に、観光開発の具体的推進計画はどうかということござ
います。館山市の観光問題は地理的背景、現実的な立地条件、さ
らには将来の館山市の発展を決定していく上からも市民の関心は
極めて強く、これまでもしばしば論議もされ要望いたしてきてお
ります。なお、また市の発展策として観光の開発を重点目標とし
て掲げておりますが、近年観光問題に取り組む具体策、対処のあ
り方にいささかの乏しさを感ずる次第でございしますが、多くの市
民の共通の感覚と言え、このように存じておるわけでございま
す。半沢市政を振り返り、観光施策が形として残されておるだろ
うか。また市民の立場からの印象としてどのように受けとめられ
ておるだろうか。かつまた観光客は館山の観光目的を何にかいて
来るのか。夏におきましては海水浴という目的に来ることはわか
っておりますが、そのほかに何があるかということについてでござ
います。市長さんは通過型観光地から宿泊型観光地への転換を
図り、また多季型観光地に脱皮すべく受け入れ体制の整備を図る
と述べられておりますが、具体的にはどのように進められていか
れるのか伺いたいわけでございます。

それから、本年度は駅前に観光案内所の建設、観光協会への補

助金の増額もなされますが、観光推進の上から結構なこととは思いますが、観光協会の昨年度の状況、なおまた本年度の運営内容はどのように期待できるのか、このことも知る必要はあると思いますのでお聞かせ願いたいと思います。

二つ目、館山小学校通学児童のバス待合所の雨よけ設置についてでございますが、この問題は多くの父兄よりかねがね要望を寄せられておりますので、その解決策を御検討願いたいと思います。実際小学生が雨の日、特に寒い季節、あるいは夏の日差しの中でバスを待つている姿はだれが見ても何とかならないものかと、その解決を望むものはまことに多くの父兄の方たちでございます。この解決につきましては行政の立場から十分検討を望みたいわけでございます。

三点目といたしましては、防犯灯、街路灯設置は市の行政の立場で行い、市民不安を解決すべきではないか。この件につきましては、これまでも何回となく提案申し上げてまいりましたが、抜本的解決を強く要望いたす次第でございます。

以上でございます。(拍手)

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 安西議員の御質問にお答えをいたします。

第一点、観光開発の具体的推進計画についてでございますが、館山市の観光開発につきましては、城山公園をはじめ長い歴史の中で育ててまいりました多くの観光施設がございますけれども、鳩山荘とか国民休暇村、あるいはいこいの村の誘致等恵まれた自然条件との調和を図りながら、南房総国定公園としてより観光開発に努めますとともに、春の花摘み園の定着化、あるいは城山の

ツツ祭り等観光施策の推進、促進を図ってまいってきたわけでございます。おかげさまでことしの花摘み園も非常に盛況でございました。宿泊施設がそれに伴わなかったというような現状もあるわけでございます。これには観光協会を中心といたしまして旅館業者、民宿業者、非常に力を入れてきたわけでございます。そういふやうやく今日その成果が実つてきたと考えております。そういうふうな状況でございますけれども、さらに自然を生かした、無秩序な破壊にならないように配慮をしながら、客観的には産業開発をも合わせて観光開発の可能性を探るべく海浜開発の診断を実施いたしました。こうした結果を踏まえまして今後十分検討し、さらに観光の推進を図りたいと考えているわけでございます。

第二点は、館山小学校通学児童のバス待合所の雨よけ設置でございますが、この問題につきましては、このバス待合所の設置及び維持につきましては、国鉄バス、日東バス等業者にいろいろ折衝をいたしましたけれども、いずれもこれは地元の負担によつて行われているわけでございます。これらの国鉄バスなり日東バスがその施設設置、維持管理について経費を出したことはないというふうなことでございます。現在その対策といたしましては各小学校ともそのバスの時間になるべく合わせて授業を行っているというふうな実情でございますので、御了解をいただきたいと思います。

第三、防犯灯、街路灯設置は市の行政の立場で行い、市民の不安を解消すべきであるという御意見でございますが、街路灯につきましては、道路照明として市が直接設置をいたしてきたわけでございます。今後必要に応じ設置を図っていきたいと思つて

おります。なお、現在街路灯につきましては、既設が二百七十七灯でございます。五十四年度は水銀灯十灯を設置する予定であります。防犯灯につきましては、地域の実情に応じた配分、設置をしているわけでございまして、従来どおり防犯協力会の事業として設置を図っていきたいと考えております。

私も、市長就任以来防犯灯については積極的にこの設置を図ってきたつもりでございますが、過去四年間を見ますと、五十年には六十四灯、五十一年度には五十五灯、五十二年には七十二灯、五十三年には六十二灯、四年間に計二百五十三灯を設置いたしました。現在の既設置灯数は四百八十三灯でございます。五十四年度は予算審議をお願いしているわけでございますが、一応八十万を計上いたしまして六十灯を設置いたします。五十三年度より約十万ほどふやしたわけでございます。

○一六番（安西益男君） 観光問題はこれまでも何べんかお尋ねしたわけでございますが、率直に申し上げます、あまりかわりばえがないということを端的に申し上げたいというふうに思うわけでございます。

いま市長さんからお話があったような各観光施設、これは大体が城山の開発にしても、クジャク園、あるいはツツジの五千本の問題、クジャク園展望台とかヤシ並木とか、観光的には大きくクローズアップしてきているというふうに思うわけですが、そういった点でなんとしてもやはり館山市がこの周辺の経済、文化の中心というふうに市長さんおっしゃっているわけでございますが、さらには将来的な展望から大きく観光問題を取り上げていかなければならないんじゃないかということで、目新しい、あるいは先

ほどお尋ねしました外来者が何の目的といえますか、観光の目標として来られるかということを重点的に考えたい、こういうふうに思うわけでございます。

そういう点で、もう少し、やはり館山はかねがねから観光の開発ということは何べんとお話を聞いておるわけでございますが、具体的に今後の館山のあり方、そういう点でいつも申し上げておりますように、鴨川なり白浜なり、そういう格差が大きくなつていく。そういう立場から、さらにはまた県南の観光拠点として大きくここで何らかの具体的な観光施策、そういうものを本当に考えていかなければならない、そういう時期にきているのではないか。こういうふうに思うわけです。

その一つとしては、何べんかこの問題をお尋ねしているわけですが、城山の里見城復元、非常に市民からも待ち望んで、その実現化を非常に大きな関心を持っているわけでございます。こういった問題もやはり積極的な方向で取り組んでいかれたらというふうに思うわけです。

実は、これは直接市との関係からどうかと思えますけれども、観光協会のあり方、これも本年度は相当増額した補助金も出されておりますし、そういう点から観光協会のウェイトといえますか、占める観光的な観点から、積極的な観光協会の活動があまりはつきりと見当らない。市民総ぐるみといえますか、観光協会の運営内容に共感を持てるような、そういう観光協会のあり方。そういうことも十分ひとつ連絡を取り合つて、今後の観光問題に取り組んでいただきたい、このように思うわけでございますが、いま申し上げましたそういう点につきましてはいま少し具体

的に御説明いただきしたいと思います。

さらには、だいぶ前から海岸清掃につきましてはビーチクリーナーという機械を近々入れるというような答弁も聞いておりましてけれども、依然としてそういった形跡は見られませんが、年間を通して館山は観光を、特に海の場合は清掃という感覚は年間を通して持ち続けなければならないというふうに感じますが、夏ちよつと前になるときれいになります、いまだこんなふうなところかわかりませんが、非常に北条海岸きれいになつておりますが、どんな方法でやりましたか、そういったことをお聞かせ願いたい。

四季を通して——どんなもんでしようか、わずかな海岸でございますから、だれが来ても一番目につくわけでございますので、そういった点で海岸の清掃については機械的な一つの方法でもつて、常に清掃を保つということをお考えいただきたい、このように思うわけです。いずれにしても船形からずつと西岬を回り、平砂浦、富崎と非常に海岸地帯は長いわけでございますので、海岸地帯の占める観光的要素は非常に大きいわけでございます。そういった点で十分観光的な施設についてもお考えいただきたいと思ひますが、とりあえずその点についてお尋ねいたします。

○市長（半沢良一君） 観光客が何を目標として、ポイントとして来るかという御質問でございますが、やはり避暑地型から、夏の観光から多季型観光へ転換するために、やはりそれぞれのシーズンのポイントがなければならぬと思ひわけでございます。そういう意味で春の花摘み園といひますか、むしろ冬から春にかけての花摘み園は毎年実施してまいりました。ツツジ祭等もやつてい

るわけでございます。これはやはり一回限りでは定着しないんで——定着しないといひますか、ポイントにならないんで、これを長い間続けていくことによつて観光のポイントになり得るんではないかというふうに考へて、毎年継続してやつていきたい。それから秋の地曳き綱祭りといつたものを取り上げていきたいと考へておるわけでござひます。そういった意味では春の花摘み園は定着してきたと思ひます。ウィークエンドにはむしろ宿泊施設が間に合わないというくらいの実情であつたように聞いております。そういったことも含めまして、鳩山荘の改築といつたようなことを考へているわけでござひます。これは五十四年度の予算で御審議をいただくわけでござひます。

観光のこれだといひ決め手はなかなか——これをやれば観光客が倍增するとか、三倍になるといふようなことは、妙案、妙手といふものはなからうと、やはりじみちな努力の積み重ねによつて実績を上げていかなければならないと思ひます。またそういった意味でいけば海岸の清掃ということは、年間を通じてきれいにすることというのは大事なことでございます。決して等閑視してゐるわけではございません。機械につきましても先般担当者に實際に作動しているところを見せにやりまして、なかなかまだ機械的に必ずしも完全とは言い得ないような報告でございましたが、これは今後十分ひとつ検討していききたいと思ひます。

それから、城山の、里見城復元というようなこともござひましたけれども、現在調査を行つておりまして、五十四年度が三年目——最後の年になります。やはりこれは歴史的な遺産でござひますのでむやみに手を加えるということとは問題もあるうかと思ひま

す。これが里見城の調査の決定版というしつかりしたものをつくりたい。そして調査が済んでおれば、多少原型をかえるようなことがあつてもその研究者の参考になるだろう。多少変化してもやむを得ないんじゃないか、そういうふうに考えております。五十四年度に行います館山城調査を最終的な決定版にいたしたいと考えております。

観光協会の問題につきましても、いろいろ御意見もございましたようけれども、組織の上から見ますと必ずしも完全なものとは言えませんが、非常に昨年一年間——ことしにかけて活発に運動を展開してきたように思います。その効果あつて特にことしの花摘み園につきましては、花の観光客については非常な成果が上がつた。これも観光協会の努力のおかげであつたというふうに大変手前みそであるかもしれませんが、そのように考えておるわけでございます。

いずれにしても、先ほど申し上げましたように、じみちに努力を続けてまいりまして、観光開発に努力をいたしたい、そういうふうに考えているわけでございます。

○一六番（安西益男君） 御努力されていることはよくわかりますので、どうかひとつ——確かに花摘み園好調だということも聞いておりますし、部分的というよりも、長続きできるような施設を考えていく必要があるかと考えております。

それと、次の小学生のバス待合所の雨よけ、これは実際に現場を見ていただければ非常に痛感すると思いますが……。地元でということ、国鉄はそんなふうな回答といたしますけれども、地元で状況を見られてこれはどうしてもという感覚をまずお持ちいた

だきたいと思ひます。これは地元で、付近の人たちの御了解をいただければ屋根をしてもらう程度のことです。それから、そんなにむずかしい問題ではないかと思ひます。そういう人たちのお考えをひとつくみ取つて、地元の立場であつてその雨よけを設置するように十分御努力いただきたいわけですが、そんなにむずかしい問題じゃないかと思ひますので、御了解いただけるかどうか。費用の点につきましてはただ屋根をつける程度のことでして、そういう点から積極的に対処していただきたい、このように強く要望しておきます。

防犯灯の件ですが、御努力は十分わかります。したがひましてまだまだ現状としては防犯協力会に補助金を出して増設しているわけでございますが、公平を欠くというと言弊があるように思ひますが、多分にそういうところが見受けられる。そういう点でまだまだ表面に出てこない——たとえば小学生が遅くなつて心配でしようがない、付近の人たちが暴漢に襲われた個所もございします。そういう個所は優先的に——協力がやるわけですから、優先順位といひますか、そういう点ではここよりそつちのほうがはるかにといつた個所があります。そういう点をアドバイスしていただいて、今後ひとつ考えていただきたい、そういうふうに思ひます。市長も百灯くらい付けたらどうかというふうなこの前お話もありましたが、二、三年百灯くらい増設されますと相、当解消できるんじゃないか、このような感じを持ちますので、いま申し上げた点につきましては御検討願ひたい。

以上をもちまして私の質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一六番議員君の質問を終わります。

次、一五番議員辻田 実君。

(一五番議員辻田 実君登壇)

○一五番(辻田 実君) 通告質問をいたします。

私は昭和三十八年に市議会議員に当選し、今回が四十五回目の通告質問でございます。この回数はいまの私の年齢と同じであり、これが市議会議員として最後の通告質問であると思うと感無量なものがございます。そこで、私はこれまでの経験の上に立ち、先に提案された施政方針と予算案について、館山市の将来的展望に立ち、質問を申し上げたいと思います。

まず、今年度予算案において衛生センターの建設の見通しがついたこと、日本医師会の健康教育モデル地区の指定を受け健康づくり対策に着手したこと、十億二千五百二十万円の予算を計上し、学校等の整備事業の充実を図ろうとしていること、国民宿舍鳩山荘の全面改築に踏み切り三億九千八百十万円の予算等を組んだことは、半沢市長のすぐれた政治手腕のためものと高く評価いたします。

そこで、第一に町村合併について質問いたしたいと思います。

この問題は十六年前に故本間 謙氏が十万都市構想を提起されて以来、館山市民の最も大きな期待の一つになっております。十万都市は単に市民の希望だけのものではなく、今日の地方都市における財政面、行政運営の面から見ても最も理想的な人口規模であると私は確信するからでございます。すでに何回かこの問題は論議してきましたが、恵まれた美しい自然環境を破壊しないで十万都市を実現する道は、町村合併によることが最も大切な方法であると思います。

半沢市長が、本年度の施政方針の中で、「本市を安房地方における経済的、社会的基盤の上に立つ中心城市として、広域の見地から地域の核としての都市機能を充実させたい」と述べられております。このように南房総の一大観光経済圏は、交通のかなめである国鉄館山駅と美しい海岸線と宿泊街をもつ白浜町が一体となつてこそ有機的な機能を発揮し、形成されるものと思われるのでございます。また、本市は産業の基礎に農業を有しております。農業生産の比重は漁業とともに非常に大きなものがあり、中央ダム水系を中心とした農業の一大躍進こそ本市の経済政策の重要な課題でございます。さらに学校給食、水道、交通等の中心に隣接の富浦町とは地形的にも同一地域でございます。したがってこれらの三町村とは文化的にも、商業的にも同じ経済圏にあり、市制発足四十年の基礎の上に合併を推進していくことは重要なことであると思われまします。いかにお考えになつておられるのか、この点についてお伺いをいたします。

第二番目にコミュニティ行政の現況についてお伺いをいたします。

わが国の近代化は反面で過密と過疎を招き、人口の急速な移動は地域社会を破壊させ、物質万能主義による教育の荒廃と人間疎外をもたらしてきました。こうした中で住民の相互の協力と連帯によるコミュニティづくりは自治体の重要な課題とされております。そして館山市においてコミュニティ係を設置し、社会開発課をつくり二年を経過しておりますが、この成果はいかなる状況になつておられるのか。またその内容について詳しく教えていただきたいと思います。

さらに、コミュニティを形成するためには地域的な核をつくり、その核を中心にして必要な公共施設の整備が図られなければならないとされております。こうした意味において、施設の整備、建設の計画が本年度予算にも見られませんが、この点をどのように考えておられるのかお伺いをいたします。

また、中学校の統合案が議案に提案されております。そこで中学校の統合による地域コミュニティの核が失なわれることについてはどのように考えておられるのか、この点についてお伺いをしたいのでございます。

第三番目に長期的都市計画について質問をいたします。

現在館山市が最も緊急な課題として取り組まなければならない一つに、館山駅前周辺の商店街の再開発の問題がございます。この問題は市長が四年前に初めて市長に立候補したときの一番中心的な公約の一つであり、この点については市民の大きな関心と期待が集まっております。この点については周知のとおりでございます。私は館山市が南房総の政治、経済、観光、文化の核である以上、いまから五十年前につくられた駅前商店街が現在の社会に対応できない、取り残された形で館山市の後進性の象徴になっている現状が残念でならないのでございます。自治省は今年度の地方財政計画を立てる中で景気回復への寄与という観点から、生活関連施設の整備を中心に地方債の使用を奨励しております。いまこそこの財源を利用して再開発と取り組む時期であると思われるのでございますが、市長の御決意はどのようなものであるのかお伺いしたいのでございます。

さらに、館山市で最も自動車交通の激しいところは、朝夕の消

防署前の通りでございます。このことは市役所、安房支庁、館高、北条小学校等をはじめ多くの官庁が軒を連ねているからで、やむを得ないことと存じます。しかしこれ以上交通量が多くなると、消防の出動に支障を来すおそれがあり、消防署の現在位置の移動も考えなければならぬ時期に来ていると思われるが、この点についていかにお考えになられているのかお伺いをしたいと思いますのでございます。

さらに、国道一二七号線のバイパス問題でございます。一昨年の請願書の提出をめぐり館山市を二分する現況にございます。しかし、市長はバイパスに反対する人があることを無視するかのようになり、施政方針の最後の部分で一方的に早期完成を促進していく決意を述べられております。そこで次の点についてはどのように判断をなされておられるのかお伺いをいたします。

一つは、聞くところによりますと、バイパスの出发点である富浦町の岡本橋のたもとより正木の小原に至る富浦地区の開通はほとんど不可能であると言われております。この点についてどのように考えておられるのでしょうか。

二つ目は、バイパスの最終点にあたる、周辺の給食センターをはじめ二つの高校、二つの小学校、三カ所の保育園、幼稚園であります。が、道路環境基準からいつてあまりにも無謀としか思えないのでございます。この点をどのように判断され対処されようとしておられるのかお伺いをしたいと思います。

次に、本年度の予算で商工会議所が地域商工業の核として商工会館を建てることになりました。しかし建設場所が都市計画的に見て地域商工業の核となり得る場所とは思われないのでござい

す。もつと適切な指導と協力をすることができなかったのではありませんか、この点についてお伺いをいたすものでございます。

同じく、国鉄館山駅の改築が現在の老朽化した建物から見てもじかにあることと思われれます。そこで観光案内所の建設が将来的に見て適切な場所であるのか若干の危惧の念にかられるのでございますが、その心配はないのでしょうか、この点についてもお伺いをいたしたいと思います。

さらに、元昭和電工跡付近に大型商店が進出すると報道されておりまして。そこで将来の都市計画と合わせて行政指導をどのようになされておられるのか、この点についてお伺いをいたしたいと思います。

また、館山市にとって観光開発は緊急にしてかつ重要な課題でございます。小説でもテレビでも大きな人気を集めている里見八太伝の物語は観光の目玉としてその価値は非常に高いものがございます。観光施策としての里見城の建設、文化財としての資料館の建設は何としても房州館山にとつては必要なことと思われれます。この点については一六番議員からも質問がありましたが、再度現在における市長の建設に対する所信をお伺いいたしたいと思います。

四番目に、市職員の三等級昇格試験について質問をいたします。午前中の一八番議員の質問に対して、従来の人事考課によるものと試験制度を併用して登用の平等性とかくれた人材の発掘をし、市民サービスを高めていきたいとお答えになられておりますが、この点についてさらに深くお伺いをいたしたいと存じます。

そこで、まず試験の内容についてどのようなものを考えておら

れたのか、この点について明らかにしていただきたいと思います。

次に、受験資格者が九十四名あり、再度にわたる申し込みを受けつけながら、なぜ一人の申し込み者がなかったのか。この原因と理由をいかに判断され、いかに今後対処されようとしているのかお伺いをいたすものでございます。

さらに、今回の昇格試験に申し込み者がなかったことは、それだけの事柄で済まされることではないと私は思うのであります。すなわち、市長並びに管理者の間のコミュニケーションが十分であつたと言わざるを得ないのでございます。コミュニケーションを推進する姿勢の市役所の中においてこのようなことであつては、市政全体においても市民との対話が不十分であると判断しなくてはならないからでございます。管理職と職員とのコミュニケーションがいかになされておるか、その現状についてお伺いをいたしたいと思います。

最後に、五十四年度予算との関連において財政問題について質問をいたしたいと思ひますけれども、市長は、市長に就任当初の五十一年度、五十二年度の予算編成にあつては健全財政を打ち出し、福祉の見直し、人件費の抑制、経費の節減等を行い、一定の成果を上げ、何はさておいても借金を返済しなければならぬということに終始をしてこられました。この点については半沢市政の財政理念であるものと理解をいたしてきたところでございます。しかし、昨年度予算からは政府の景気浮揚と財政赤字の負担を起債に依拠して解消しようとする政策が打ち出されてからは、これまでの消極的財政から積極的財政に転換をしてきたことは、

一面高く評価したいところでございます。しかし、政府の生活関連の基盤整備の投機的な起債の活用が奨励されても、その事業が長期的な見通し、さらに客観性のないものであつては財政破綻を招くことになりかねないのでございます。昭和五十四年度予算に計上された年度末起債総額は実に四十二億三千七百十五万円に達しております。この額はこれまでの予算に占める割合でも、金額においても最高のものでございます。そこでこの点をいかに考察になられておるかお伺いをいたしたいのでございます。

また、政府の政策が転換されない限りこれからも借金財政を継続していかなければならないと思われるのでございます。そうなりますと起債の償還は大きな財政負担にならざるを得ません。現に五十三年度公債費は当初予算で三億四千五百九十二万円に達しております。五十四年度には五億百三十五万円に高騰しておるのでございます。そこで起債の償還見通しをいかに考え、計画的になされているのかお伺いをいたしたいのでございます。

以上、具体的かつ明瞭な御答弁をお願い申し上げる次第でございます。(拍手)

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 辻田議員の御質問にお答えをいたします。町村合併の推進についてでございますが、御案内のように経済社会の進展の結果、お説のとおり本市及びその周辺町村の住民の日常生活圏は行政区域を越えて形成されておるわけでございます。しかしながら、私は、行政区域の変更ということは、それぞれの町村住民の自主的な判断にまづべきものでございまして、行政はその区域が多少実情に合わなくなつても、直ちに区域の問題に触

れるということではなくて、これを補う方策をもつて対処すべきであらうというふうに考えているわけでございます。

現在、広域的な行政需要にこたえるべく関係市町村と幾つかの共同事業を進めているわけでございますが、本市は安房における中核都市としての自覚の上に立つて、圏域の一体性、統一性ということを考慮しながら住民福祉を推進いたしますとともに、本市自体においても圏域への教育、文化、医療、商業、娯楽等日常的サービスを充足させる都市機能を整備してまいりたいというふうに考えているわけでございます。大変これはむずかしいことがらでございますけれども、そのような考え方をしているわけでございます。

そうした中で、近隣町村住民の間に合併機運が醸成されるならば、そのときにこそ積極的に合併という問題に取り組みたいと考えております。

第二点は、コミュニティ行政の現況についてでございます。

コミュニティは地域住民の連帯意識を醸成するとともに住みよい町づくりを推進する母体であるという考え方から、その啓蒙、醸成を進めているわけでございます。本来コミュニティは市民の自主的、自発的に発生し、形成されることが理想でございますけれども、行政があえてコミュニティ醸成に力を入れているわけでございますが、これが形成されましたあとは、市民参加の行政がより推進されるものだというふうに期待をいたしているわけでございます。現況では、全市域的になかなか十分浸透しているとは言えませんけれども、各コミュニティ区の委員会活動等によりまして徐々にでございますけれども、住みよい町づくりへの諸活

動が行われておりまして、コミュニティ運動がだんだんと定着しつつあるものと信じております。

コミュニティ活動の核となる施設につきましては、各地区に公民館の分館、あるいは青年館等が設置されておりますので、地域コミュニティ施設としてその活用を図っていく考えでございます。

コミュニティと学校というのは密接な関係がございまして、コミュニティ区域は小学校区、あるいは中学校区、あるいは伝統的歴史的な広がりのある生活圏が適当であるといわれているわけでございますが、当市の場合には、コミュニティ醸成は小学校区、あるいは旧村区域として位置づけを行っているわけでございます。いま十地区でこれを行っているわけでございます。

第三点は長期的都市計画の確立についてでございますが、館山駅前の商店街の再開発というところでございます。単に商店街という立場から考えますれば、商店街の体質等の改善を図り、近代化を促進するということは、大型店出店に対するものだけでなく非常に多様化した消費者要求を充足し、魅力ある商店街の形成の上で重要な問題でございますが、単に商店街の形成というだけではなくて、広く館山自身の近代化への対応として、都市再開発と申しますか、都市再改造と申しますか、そういう必要があるんじゃないだろうか。特に安房地方の中核都市としての館山市の責任として都市改造、都市再開発、そうした考え方をもって進めていかなければならないというふうに考えているわけでございます。

そういう意味で、五十四年度からプロジェクトチームを編成いたしまして、地方中核都市、あるいは建設省などで申しております生活圏構想とか、あるいはいま政府でいっております田園都市

構想とか、表現の仕方はいろいろございまして、やばり特色ある文化圏の中心としての都市を、魅力のある近代都市をつくるように今後計画を進め、その実行に移りたいというふうに考えているわけでございます。何年までに計画を終えて、何年かからかかるというようなことは、これから発足する段階でございますので申し上げるわけにいきませんけれども、そうした方向で極力努力をいたしたいというふうに考えているわけでございます。

消防署の位置の問題でございますけれども、現在の位置は位置としては適当な位置だというふうに考えているわけでございますが、ただ昨今の交通事情の悪化を考えると、必ずしも適当な場所とはいえないような状態になっておりますけれども、いままでのところ大きな支障は生じておりませんので、現在のところ移転は考えておりませんが、一二七号バイパスの建設によつて交通事情の好転が期待できるのではないか、そういうふうに望みを持っているわけでございます。

第三点の一二七号バイパスの路線変更についてでございますが、一二七号バイパスの建設につきましては、本市はもちろん、関係市町村をはじめ県南住民の長年の懸案でもあり、地域振興の上からも、生活環境の向上を図る上からも、その早期実現が期待されているものだとは私確信をいたしております。

このようの中で、昭和四十九年国道一二七号線館山バイパスが国の直結事業として決定されました、それに伴い各種調査が実施され、現に那古地区の県営ほ場整備区域で道路用地の買収交渉が進められておりますけれども、今後も環境面での影響等十分配慮いたしまして、国に要望すべきことは要望し、地域住民の理解、

十一の内

協力を得ながら現在の路線計画を促進してまいりたいというふうに考えているわけでございます。

第四点の公共建物の位置の行政指導についてという御質問でございますが、大変むずかしい問題でございます。現在、単に公共的建物だけでなく、あらゆる建物が非常に厳しい土地条件の中で、用地を確保すること自体がきわめて困難になっているわけでございます。各商店街の位置づけ、あるいは商工会議所の場所等市の将来計画の中でその位置は配慮すべきであるという点については御指摘のとおりでございますが、なかなかそれに対する指導等は困難な問題だというふうに考えているわけでございます。

次に、里見城の復元と資料館の建設についてでございますが、先ほど御答弁申し上げましたけれども、現在館山城址の調査が進められておりまして、昭和五十四年度をもつて一応完了いたすわけでございますので、その後いろいろ調査の結果、あるいは市内に散在しております里見資料と限らず歴史的、民族的な文化財を保存するような、そういう郷土博物館的なものの建設をいま考えております。建設方法、その他につきましても調査を進めている段階でございます。

大きな第四点は、市職員三等級昇格試験についてでございますが、これにつきましては渡辺議員にお答えいたしましたとおりでございます。客観的な評価も加えて——従来の人事考課というよりな、ややもすれば主観的に流れやすい傾向もございましたので、客観的な評価も加えて、正しい総合的な職員に対する評価をいたしたい、そういうふうに考えているところでございまして、これにつきましては各課長等を通じて十分職員に知らせてきたわ

けてでございます。職員組合のほうからも種々質問等がございしますれば、その都度助役以下担当部課長で説明をしてきたわけでございます。

大きな第五点は、借金財政の見直しについてでございますが、御案内のように地方債は、地方公共団体の行う住民全体の恒久的な福祉の維持向上に寄与する緊急な事業のうち、事業効果の大きいもので、地方債をもつて措置することが適当と認められる事業について許可されることになっているわけでございます。地方債はその団体の地方債比率が二〇％を超えたと一般単独事業や厚生福祉施設整備事業については許可されなくなり、三〇％を超えたと災害復旧事業と公営企業債以外は許可しないことになっているわけでございます。というのは、この比率が二〇％に近づく

と財政の健全性を脅かすことになるため、制限を受けるわけでございます。

当市の場合、五十二年度決算における地方債許可制限比率は六・三％で、県下二十六市中では低いほうから四番目でございます。五十四年度の地方財政計画におきます五十二年度末現債見込み額は二十五兆三千六百四十七億円で、計画額三十八兆八千十四億円の六五・三％に達しておりますのに比べますと、本市の五十四年度末現債見込み額は予算の五二・八％という低い率であるわけでございます。

国が地方財政対策として、地方財源不足見込み額の一部を建設地方債の増発ということで昭和五十一年度から毎年措置されまして、本年も一兆六千四百億円の建設地方債が増発許可される見込みでございますが、この増発分にかかわる元利償還金の全部また

は一部が地方交付税の需要額に積算されているなどの実情を考えますと、事業の性格や緊急度、事業効果等々を総合的に判断いたしまして、市民全体の福祉向上に寄与する事業については起債による推進を図ることが適當であるというふうに考えているわけでございます。

起債の償還見通しとその計画についてという御質問もございましたけれども、現行制度のもとで公債費の構成比も現在と大差ない状態で起債償還が可能です。そういう見通しをもっております。

なお、付け加えますと、財政に多少の余裕が生じた時点では将来の公債費負担の軽減を図りますために、利率の高いものについては五十三年三月三十一日に一億三千五百二十八万円、五十四年三月三十一日に四億七千七百十万円、五十四年五月三十一日に一億三千七百四十万円、計七億四千九百七十八万円の繰り上げ償還の実施を予定しているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○一五番（辻田 実君） それでは各項目ごとに再質問をいたしてまいりたいと思います。

町村合併についてでございますけれども、この点については市長も、すでに施政方針の冒頭に書いてございますように、館山市は二回の合併によって、一つは昭和十四年に四町村合併によるところの市制の施行ということでもって画期的な行政に踏み切つておるし、それから、市長が指摘されておりますように、昭和二十九年には六カ町村が合併して市政の大転換を図つたというふうになつておるわけでございます。このことは館山市政診断、その他

の中でもつてみんな明らかにされているわけでございます。そしてすでに十五年前に館山市でもつて予算を組んで、市政診断の中においても、館山市は経済圏に即したところの町村合併というんですか、行政規模をもつていかないと、観光、交通、農業政策、こういうものについても有機的な効果が発揮されないということが指摘されているわけでございます。

確かに、町村合併の問題については大変なことでございまして、地域性とか、従来の伝統がございまして。これは簡単にはいかないと思います。しかしながら、三中建設においてはかなり大胆な決断をされて幾つかの学校を統廃合しようということであるわけでございます。私は今日館山市が市長の施政方針の中に誘示されておりますように県南の産業、経済、あらゆるもののかねめだということであれば、工業の経済圏、商業の経済圏、交通、文化、こうしたものをやはりやていくことが大切ではないかということとで、市長は合併の気運が盛り上がるならば、こういうことをんですけれども、市長も二期目を迎え、私は非常に大物市長の到来というところで期待しておるわけでございます。近い間に町村合併については少なくとも富浦、白浜、三芳、すでにいろんな広域行政でもつて一部議会等もつておるわけでございますから、市長は決断をし、そして決断した中において何年かかけてやはりこの実現していく話し合いをされて実現していくことがなければ、単に気運がくればということではなくて——これは政治用語でいっても、これはやらない、あたりさわらないことになろうかと思ひますけれども、この点についてはいままでも現時点でもつて決断をする、こういうようなことにつきましてはお考えになつておるのかおら

ないのか、もう少し具体的に聞きたいというふうに思いますのでよろしく願いたいと思います。

○市長（半沢良一君） 生活圏、あるいは文化圏、広い意味で経済、政治、交通、教育を含めて一つの生活圏というか、文化圏といったものが即行政圏でなければいけないという根拠は何もない、いろいろな隣接した町村がそれぞれ機能を分担しながら一つの全体的な生活圏をつくり上げていくことは十分あり得ることです。ですので、私は必ずしも生活圏の形成即合併とは考えない、そういうことを先ほどから申し上げているわけでございます。ただ、生活圏の中で、文化圏の中でそれぞれの市町村が合併をしようという気運が出てくるのが先決じゃないかというふうに考えているわけでございます。

○一五番（辻田 実君） コミュニティ行政について再質問をいたしたいと思います。

市長は、コミュニティについては高く評価しているわけでございますけれども、コミュニティ係をつくって非常に意欲を見せているわけでございますけれども、あくまでも市民の自発的なものという限界を出ておられない。これは行政として——私は意味がないとは言わないけれども、効果の上がらないものだろうというふうに考えられるわけでございます。コミュニティを推進するというのは、結果的に市民の自発的な盛り上がりが必要ならなければならぬ、しかしながら市民の自発的な盛り上がりができるような行政ということが今日行政に課せられた課題ではないかというふうに思うわけでございます。と言いますのは、館山市は町村合併に伴い、市の行政を近代化していく中において、あらゆる施設

を北条の中心部に集中してきて、過密、過疎を館山市の中において招いてある。こういう結果により旧村の人口は減少し、北条と館山の一部地区において増加しているというアンバランスが出てくる。

そういう中において、さらに学校の統合が押し進められるということについては、コミュニティの核を失うことになるんじゃないか。これは日本の都市学というんですか、日本のコミュニティというのは昔は寺小屋、今日においては義務教育の学校を母体にして、そして教育、文化、スポーツ、こういうものが形成されてきてある、ということがいわれております。ヨーロッパ等においては教会を中心にその前に役所ができ、その前に運動場ができ、みんながそこに集まって一つのコミュニティ都市というものが形成されていく。日本の場合には伝統的に学校を中心としたものがあるわけでございます。一方においてこの学校園の変更に伴いそれに対応でき得るところの一つの核をつくるということはこれは行政の問題であつて、市長が本当にコミュニティを具体的に進めなければならぬということになれば、この中学校の統合問題についてももうちよつと考えてもらいたい。館野、九重地区についてはそれだけでなくコミュニティが過疎化している地域にあるわけでございますから、むしろいろんな文化的、環境的な施設はそういった地域に分散させていく。そういったことによつて地域コミュニティを育成する契機になるんじゃないか。

今回、大平総理は地方分権、田園都市構想という中でもつて、中央がふくれ上がったことは日本国家にとつていいことじゃない、地域ごとに関るんな施設をつくり、地域の産業発展を図らなければ

ばならないということを出しているわけで、その考え方自身については私も共鳴するところであつて、このことは同時に館山市においてもやはり北条のまん中だから便利だということではなくて、三中の問題についてはむしろそういう意味から北条の生徒が館野、九重へ通うことはいけな理由はないわけです。館野、九重の人が北条へ来なければならぬ鉄則もないわけでございます。まして一小学校区内に二つの中学をつくるというようなことは、千葉県をはじめ日本の教育界においてはほとんど例をみない状況でございます。こういう意味からまた学校は規模そのものだけでなく決められるものではない。地域のコミュニティの中において育つ学校はそのコミュニティの象徴であり、今日の日本の都市形態の中からいつて一般的であり、それが伝統にあるんじゃないか。

そういう意味では、今回コミュニティとは離れた形の統廃合になつておるんじゃないかというふうに思われるわけでございますけれども、この点については公民館とか青年館建つておるということでございますけれども、その数は農村部において十分とは言えないわけで、北条地域、館山地域と農村においての数の比は必ずしも農村地区重点というふうにはいつていないわけでございますけれども、そのほか市民体育館なり、そういうものを今回二中につくるわけでございますけれども、そういうものは市街のほろが便利は便利けれども、しかしコミュニティということについてはかなり問題があるんじゃないか、このように思いますが、この点について市におきますところの施設の関係については、いままでコミュニティ政策としての予算は見受けられなかつたけれ

ども、今後もしやういふことなのかどうなのか。その点について市長の考えをお伺いしたいと思うわけでございます。

○市長（半沢良一君） 私は、コミュニティというものを、先ほど申し上げましたように小学校区を、あるいは旧村を一つの単位として考えておるわけでございます。さらにその上に中学校区の区切りが存在し、それが広がつて全市のコミュニティになる、そういうふうにコミュニティの多層構造を考えているわけでございます。そういう意味で、中学校の統合については決してコミュニティを破壊するものではなく、より発展させるものだというふうに考えているわけでございます。

それから、コミュニティのいろいろの施設につきましては、やはり学校区——小学校区というような考え方をしておりますので、コミュニティ施設としてはつくらなくても、学校の体育館をつくるとか、プールをつくるとか、そういうことが即コミュニティのスポーツ施設に、集会施設につながるものだというふうに考えておるわけでございます。

○一五番（辻田 実君） この点については、意見の違いは相当ありますので、学校問題については議案の中でいたしたいと思ひます。

次の都市計画について質問いたしたいと思います。

駅前再開発については、魅力ある都市づくりというところで、これから計画云々ということでございますけれども、この点についてはこれからの計画ということではもうすでに市長は市長に立候補したときから四年有余過ぎておつて、これからというのはどういふことなのか——ということについては私は論議はし

ませんけれども、これから早急に実現してもらいたいというふうに考えるわけでございます。

やはり、私は館山駅前の商店街が単に館山駅前の商店街のものとしてのことではなからうというふうに思うわけでございます。

私はこの地域の再開発がひいては道路、交通、さらにはいろんな施設——文化的な施設、教育的施設、こういうものの位置もすべて決定していくということであるから、この点については早急にやるべきではないか。私は一二七号線バイパスについても、やはりこの道路をつくる以前に駅前開発をして、駅前から出る国鉄と市民との結びつく道路の線をどのようにすべきか、そしてこの国鉄と館山の市民とのそうしたところの官庁街との連携が隣りの千倉町とか鋸南町とどのように連携するかということで、このバイパス線の問題が明確になつてこなければいけないんじゃないか、こう思っているわけでございます。

商工会議所が土地がなかつたからといって浜のはずれのほうに建つてしまつていく。施政方針の中には商工業のかねめとしての商工会館ができること云々と書かれております。はたしてあれがかなめになるべき場所なのかどうかかなり問題になると思うし、大型店の進出によつて好むと好まざるによつてその地域の人の流れというものが変わるわけでございますから、流れに対応したところの交通政策が確立されなければならぬということ、非常に後手後手の姿勢にまわるわけでございますから、この点については早急にやはり抜本的な都市計画というんですか、都市の再開発を明示していただくことがいいんじゃないか。

何かそつちこつちにいろいろな建物が分散して建つてしまつて

館山はもう土地がないとかんたかというところで、業者なり民間の人たちがそういう都市計画はどうこうと関係なくあればその場所に建てよう、こういう面がかなり見受けられる。十年、二十年先に当時の市長や市会議員は何をばやばやしていったといわれる状況が出てくるんじゃないか。こういう点については市長と議員とはコミニティを深めていかなければならないというふうに考えておるわけでございまして、この点については要望になりますけれども……。

一二七号バイパスについてのお答えが明確になつていないのでこの点については明確にしたい。

一つは、先般私がある会合でもつて、富浦のかなり政治、経済に通じた人たちと若干の時間をもつて話したんですが、まさに富浦から小原に至るところのバイパス線の入口は目途がつかないんじゃないかというふうに聞いたんですけれども、この点についてはどのように判断されておるか。

昨年、私が建設省の役人に聞いたときも非常に困難だということと言つておつた。その後進展はあつたのかどうか。昨年の暮れの話です。いまだに出口と入口ができないというバイパスがあり得るか。ごく最近になりますと、ことしの予算の中でもつて耕地整理をした中の土地が売るようになっていて、予算化した中でやつたので買つてもらわなければならないという人たちが、さかんに道路公団等に、建設省に押しかけて、買つてもらつて何とか金にしたいという動きがあるというのを聞いておりますし、建設省のほうはそういう要望があるから、買わないといけないから、将来道路になる、ならないは別として買いたいと

いうことで、住民との話し合いの中で出されておつた。こういうことでもつて、これとてほとんど見込みがなさそうだし、私は建設省の参事といわれる人と話したんですけれども。北条小学校、中央保育園、南高、館山高校、こういう学校のところ、道路から百メートル以内の隣接地帯に、こういうところにバイパスが通ることがあり得るか。館山市のほうから陳情してきているんだけれども、そういうことを聞くと私はどういうことで陳情してきているのか疑問ですけれども、皆さんのほうでもつていいということをやつたんです。環境庁のほうに行つたらとても許可になりませんよ。館山はそういうことでもつてよくこういうことが通りますね。こういうことで、正規の話じゃなくて雑談でございますけれども、向こうが驚いておつた。現実的にあれだけの学校のところをぎりぎりを通る、こういうことがはたして道路環境基準というものがある中で考えられないのかどうかということです。

この点について、私はいままでの経過の中からバイパスについては路線の変更等も考えられるというようにことも言われておるので、こまかく詰めておりませんけれども、直接館山の国道じやありませんから、ここで詰めるというわけにはいかないんですけれども、しかしいま言つた学校群の中を通すことについて、市長自身推進していつているものかどうか。住民の立場から、むしろ建設省のほうの道路課の担当官ももう少しいい方法でもつて変更できないかということが言われているくらい、一般的常識からいつて困難性があるということ、入口と出口がふさがつたバイパス云々ということについては、単なるかけ声でもつて市民の利益になるかどうかということについては非常に疑わしいわけでございます。

いますけれども、富浦の状況、学校群との問題についてどのように考えているのか先ほどお答えございましたが、この点についてお答えを願いたいと思います。

○市長公室長（汐崎政光君） 一二七号線バイパスに関しまして、富浦町の状況についてであります。深名、青木、原岡、これらの部落につきましてはすでに建設省の測量が終つております。ただ福沢、多田良部落にありましては専業農家が多くて、農地がつぶれるというふうなことで反対者が多い。そのためにまだ測量ができない、このように聞いております。

それから、学校環境についてでございますが、騒音とか排気ガス問題が一番大きな問題であろうと思いますが、この件については十分な配慮をしてくれるように国に対して要望しております。

特に、騒音につきましては、学校の保健上の基準といまして、窓を閉じている場合にはその中央値五十ホン以下、窓を開けているときには中央値五十五ホン以下、こういったふうな基準もありますので、この音響については五十ホン以下に押さえるように国に強く要望しております。国は、これに対して防音壁を設けることによつて要望にこたえる、このような回答をちょうだいしております。

○一五番（辻田 実君） その問題については、あとで若干意見を申し述べたいと思います。

無理なところに防音壁までやつて——国の金だからといって、無理があるからそういうことをしなければならぬであつて、この点についてはもう少し路線として適当な場所を考えるのが至当じゃないかというふうに思うわけでございまして、この点につ

いては意見も違ふようですから……。

四番目の市職員の三等級昇格試験についてでございますけれども、市長はいままでの考課等によるだけでは不十分だ、こういうことで、かくれた人材の発掘等も云々、試験制度をやることによつて勉強してもらつて資質云々というのをいわれておるわけでございますけれども、私はこれは非常に第三者的な言い回しじゃないか。館山市の課長、部長がこれだけの数いるわけでございます。その傘下におきますところの職員というのは非常に少ないんですよ、五十人、六十人いるわけじゃないんですから。その中でもつて日常——すでに三等級という等級に対する年令は三十歳前後になつてゐるはずなんです。こういうことに入つてから少なくとも八年とか九年勤務してゐる中において、その職場、職場においてある程度の知識というものは試験をさせなければ勉強できないような管理状態なのかどうか。この点については自分の非をそういう形の中で転嫁するものだというふうにしか思われないで、この点についてはどうかということ。

もう一つは、いままです事試験等についてはありますけれども、現実的に三等級について試験制度ということは実際に行われてきていなかつたわけでございます。これはそのような状況があつたからだというように思われるわけでございますけれども、少なくとも今日における青年期から壮年期に至るところの最も大きな問題は——高校入試、大学入試によつてペーパーテストができればいいんだ、そのことによつて判断される、この教育的な弊害が非常に青少年の不良化の問題等助長してゐるわけでございまして、こういう形の中でもつて人間性が弱められておつて、何とかしな

ければならぬじゃないかという点において三等級の試験を実施するということについては、こうした問題をやはり繰り返すんじゃないか。繰り返すことによつて得るものは何もないんじゃないかというふうに思われるわけでございますけれども、いままでの考課によるところの裁定では——いまの管理者は十分職員を掌握し、職員の能力がどうであるかということが十年も経つてわからないのか。かくれた能力を見出すことがペーパーテストによらなければできないような管理体制なのか。この点についてお伺ひいたします。

○市長（半沢良一君） 先ほど渡辺議員の御質問にも御答弁いたしましたとおり、ペーパーテストだけで昇任を行うというものでは決してございません。地方公務員法の第十五条で受験成績、勤務成績、その他の能力によつて昇任を行なさいということになつてゐるわけでございます。従来やつてこなかつたじゃないかとおつしやいましたけれども、むしろやつてこなかつたほうが変則なんで、この規定によればやるべきだということでありまして。同時に組合側から従来人事考課の基準があいまいではないか、もつとはつきりさせてくれという要望が再々あつたわけでございまして、そういう意味でも、考課の客観性を確保するということ意味でも、ペーパーテストをやつたほうがいいんじゃないか、そういうふうに考えてゐるわけでございます。あくまでもこれだけやるわけではありませんので、勤務成績、その他の能力、そういうものを——主観的な評価にややもすればなりがちですので、極力客観的にみるような方法で受験成績を加えるということでございます。

○一五番（辻田 実君） 時間がございませんので、簡単に申し上げ

げたいと思います。

私は、今後の市政の中で、町村合併については時期をみて、館山市の市政の飛躍的な発展ということを願うならば、早い時期に決断すべきではないか。こういうふうに思ひまして、これらは今後議論を巻き起こすことだと思ひますので、市長に決断していただくことを要望したいというふうに思ひます。

さらに、都市計画については、やはり駅前再開発は館山市の都市計画の中心でございますから、中心が決まらないものはすべてがきまらないわけでございますから、そういう面については、これから計画云々ということじゃなくて、やはり早急に決断をしていただき、そして美しい、合理的な近代都市を形成していただくことをお願いしたいというふうに思ひます。

それから、里見城の復元については、いま調査をしており、その後においてということでございますけれども、調査の結果が復元云々じゃないと思ひます。これはやはり市長が、いづれ館山が観光の中心ということで決断する時期があるうと思ひますので、この点についてはひとつ決断をして、里見城の問題については取り組んでいただきたい。

その次に、職員の問題についていろいろ言われておりまして、時間がありませんから、詰めることはできませんけれども、しかしながら市政の運営について市長自身が今後市の職員と話し合いによつて——少なくとも募集して全員にポイントされるといふような状況はかもし出してもらいたくない。こういうことでもつて館山市民との対話なんてできるわけではないんです。市長自身この問題を契機として、やはり試験をやる、たしかに立派な方針を

出してやる、それなりのものを理解してもらおう、理解できた上でやる、こういうことをしなければ、自分だけ考えていいといつても、働く五百有余の職員がこれについて理解を示さなければ意味がないわけでございますので、この点については話し合い、市政を推進してもらいたいことを要望いたしまして、時間でございますので終りたいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一五番議員君の質問を終わります。

次、一〇番議員流山源次郎君。

（一〇番議員流山源次郎君登壇）

一〇番（流山源次郎君） 本日、最終定例議会の通告質問にあたりまして、四年間の長きにわたつて討議されました数々の問題点の中から、私は次の三点につき再確認と今後の前進への踏み台と思ひ市執行部に御質問を申し上げます。

いままでも数多くの先輩議員によつて取り上げられました観光行政についての件でございます。

まず、第一点といたしまして、観光館山市のシンボルの一つであります崖観音の美化についてお尋ねいたします。他県から、また他の市町村より館山に入り、まず観光客の目を驚かせるのは、崖の中腹に建立されました観音堂だと思ひます。またバス旅行のガイドには必ずこの案内が入れられているということを聞いております。美観も山より落ちる岩石、また銅板のサビ等により、だれの目にも汚なく映るこの観音堂のペンキ塗装による美しき装いはできないものかどうか。またできぬどのような理由が存在しているのかお聞かせ下さい。

第二点の海岸線の整備清掃についてであります。館山観光を

支える海、海岸線、この汚物による公害は心ある人々の心を暗くするものでありますが、市はこの海岸線の整備、また清掃につきどれだけの力を入れているかお聞かせ下さい。

第三点は、すでに御存じのとおり、北条海岸におけるヤシ並木について、その後の手入れはどのような対策が討議され、実行に移されていますか。

さらに、第四点の隣の島より沖の島に通ずる道路舗装及び護岸破損箇所の整備はどうなるのか。将来の展望をお聞かせ下さい。

次に、農水産業の将来性についてお尋ねいたします。

私も農政審議会の一員といたしまして、減反政策による水田利用対策等に参加しておりますが、昨年度はどうやらこうやら目的を達成いたしました、このために三年間は現状維持という線が打ち出されております。外国よりの農産物の輸入、またあらゆる面を考え、これ以上に米離れが多くなつて減反を強いられたい場合には、館山の農業経営者の将来はどうなるかという心配がございますので、これに対します市の独自のビジョンを聞かしていただきたいと思ひます。

次に、水産業についてありますが、京葉工業地帯造成による輸送タンカーの往来激しく、自然、操業海面の縮小により漁業者の苦しみは相当なものがあつた。さらには多くの水産労働者を抱え、漁業の遅れ等による経営面の困窮で、年々わずか一カ月の期間が保てず倒産していくアグリ船員に対して、この不漁期間の救済融資等の対策が市にあるのかどうかお聞かせ願ひます。

最後に都市衛生についてお伺ひします。

公共下水道及び終末処理場の施設はいつごろから計画を立て、

これを施行されるかお聞かせ願ひたいと思ひます。

以上をもつて私の第一の質問を終わります。御回答により再質問していきたく思ひますが、いずれも市民本意に立つて実りのある回答をお願いいたします。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 流山議員の御質問にお答えをいたします。大きな第一は、観光行政についてでございます。

崖観音の美化という問題でございますが、崖観音はおつしやるとおり古くから独創的な、しかも美しい建物として親しまれてまいつたわけでございます。また壁面に刻まれた観音立像は昭和四十五年二月市の指定を受けた文化財でございます。御指摘の建物の自体の補修については市の負担であるというところは法的にはできないわけでございます。文化財そのものの維持保全に大きな支障をきたす場合には、実態に即し善処いたしたいと考えております。

第二点は、海岸の整備清掃についてでございますが、この清掃につきましては状況に応じ清掃をいたしておるわけでございますが、主として河川からのごみ流出によつて一晩のうちに海岸がごみの山になるといふようなことが反復されているわけでございます。海岸清掃人夫を頼んでおりますけれども、だんだん高齢化しておりますので、今後は機械力による清掃を考慮し、よりよい管理を考えたいと思つております。

北条海岸のヤシ並木のその後の手入れについてという御質問でございますが、本年度は北条桟橋から館山ガーデン前までのグリーン帯の砂を除去いたしました、ヤシの深植え状況を解消し、破損した防風網の撤去をいたしまして、グリーンベルト内の整備を

図つてまいつたわけでございます。合わせて防風網を高さ一メートル、延長四百三十二メートルに新設をいたしまして、整備後のグリーンベルト内に一両日中に草花を植栽いたしたいと考えているわけでございます。五十四年度には残された部分に対しまして同様整備をし、給水施設の設置、補植等を行い、北条海岸ヤシ並木の管理、育成を図り、環境美化に努めていきたいと考えているわけでございます。

沖の島から鷹の島に通ずる道路舗装及び護岸整備という御質問でございますが、鷹の島から沖の島に通ずる道路の舗装については、昭和五十三年で実施するように予算計上いたしましたわけでございますが、県有地を防衛庁が払い下げる話もございまして、この県有地部分については舗装することができなくなつたわけでございます。しかし鷹の島神社前から鷹の島裏側の坂の頂上までの約三百八十メートルの間の道路は、大蔵省に折衝いたしまして、用地の解決ができましたので、現在舗装工事を実施中でございます。沖の島に通ずる道路を早急に整備することが念願でございますので、県有地の部分については県を通じて運輸省の港湾環境整備事業で道路と護岸が整備できるか、あるいはまた防衛庁が県有地を払い下げることにより道路と護岸が整備できるか、両者について現在折衝を重ねているところでございます。

大きな第二点、農水産業の将来性について、一、減反政策と農業の将来の見通し、またそれに対する市独自のビジョンを、という御質問でございますが、当面する農政上の課題でございます水田利用再編対策の実施については、良質米の生産と消費拡大と合わせて転作条件の整備等行つていきたいというふうに考えている

わけでございますが、将来の見通しについては、昭和五十四年度で集落分析を行い、地域の特性を生かした農業施策の展開を図りたいと考えているわけでございます。

第二点は、操業海面の縮小による不漁対策について、市としての救済を考えていないかということでございますが、東京湾を主漁場とする餌料まき網漁業は埋め立て、本船航路設定、公害等操業範囲の縮小で漁獲の減少に影響しており、県においてはこれが救済のため東京湾振興対策事業として融資制度、施設補助等を実施しておりますので、市としても県の施策に沿つて今後とも考えていきたいというふうに考えているわけでございます。

最後の大きな第三点、都市衛生についてでございますが、公共下水道の問題でございます。現在国の第四次下水道整備五カ年計画——これは五十一年度から五十五年度でございますが、実施されておるわけでございまして、この五カ年計画の中に要望しておきませんと事業が実施できませんので、本市といたしましても四次計画の中に要望してはあつたわけでございます。今後公共下水道の基本計画調査を行いまして、これに基づいて種々手続を進めることにより、公共下水道事業を実施することができますれば、当面する諸事業との関連もございまして具体的な計画を進めるには至つておりませんので、第四次五カ年計画に続いてさらに第五次の計画、すなわち五十六年から六十年の中にも再要望してまいりたいと考えているわけでございます。

公共下水道は、都市問題の中で検討すべき重要な課題でございますので、施政方針でも申し上げましたとおり、今後プロジェクトチームをつくりまして、都市改造を検討いたしたいと考えてお

りますので、都市改造の中で検討を重ねまして実現に努力していき、そのように考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○一〇番（流山源次郎君）、観光行政についての、第一点の崖観音の美化についてでございますが、いまの市長さんの答弁によりまして、十一面観世音、崖に彫られた千葉県下では最古でございます、藤原式の十一面観世音菩薩の、県のほうは市の文化財というお話でございますが、現在、観音堂は昔から仏像を彫られた同じ岩につくられて、その仏像を風、そういつたあらゆるものから保護するために建てられた建物のように聞いております。崖観音の舞台に上がりましてやはり館山海というものを展望した場合に大きな観光的要素があるわけでございまして、普通の寺社、仏閣とは趣は異なるんじゃないかと思うんですが、市の考えではお寺とかそういうふうにとつておるようですが、崖観音、石仏、それを総体的なものと考え、観光面で全体的な予算で改築とか、そういうものでなく、せめて屋根にペンキを塗るといふことだったり現在の専門家の話を聞いても二、三十万あればきれいになるという話でございますので、観光行政の上からせめて屋根ぐらゐ表玄關のものは塗つていただきたいと思います。その点につきまして市長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長（太田博雄君） 一〇番議員さんのおっしゃることはよくわかるわけでございますけれども、ただいま市長からも答弁いたしましたように神社、仏閣等の関係も一応——一〇番議員さんはそういうことでなくとおっしゃいますけれども、一応法的にはいろいろの問題がございまして、検討させてもらいたいと思

います。市長が申し上げました文化財、そのものの維持、保全に大きな支障をきたしたような場合におきましては、社教のほうにおきまして修繕費が予算化してございますので、そういう場合には、そういつた点で考えてまいりたいと思います。

○一〇番（流山源次郎君） 文化財の件でございますが、これを管理しております平野さんのお話では、風雪によりまして崖観音の石仏がだんだん形が崩れておかしくなっている、指定されている仏像自体が。それで何回か市に対して保護してもらいたいという陳情を出しても、全然その面については音さたがないということも言われているわけで、市の答弁を聞いていますと文化財だということ、文化財のほうに出しても返事が返つてこないということもあるので、観光ということで善処すべき問題があつたらお願いしたいと思ひます。

それから、海岸線の整備、清掃についてでございますが、確かに市長さんおっしゃる通りに河川等によりましてそれぞれのごみ清流について、季節によつて風が吹けば海岸線汚れますが、一年にならしますと、たびたびあるにしてもある程度の予算措置があれば解決する問題です。市長さんは機械等の購入ということをうたつておりますが、前回市の委託でなくほかのコミュニケーション団体にまじつて海岸清掃に参加したんですが、河川から流れるごみ、それから海岸へ打ち上げのごみ以外に観光客が来て空きかん等が相当捨てられて、それが砂の中に埋まつてしまつたり、ビールびんのかけらが非常に多いんです。

結局、私が言うことは、北条海岸ばかりでなくて、船形から館山を囲む一帯、また平砂浦海岸等においても同じと思ひますが、

一年間ほとんど一人か二人の工夫をつかつて定期的にちよこちよこことやつていらっしゃるんですが、一中の下あたりはどうしようもないということ、昨年度は市にお願ひしたんですが、予算もないということ、衛生課にお願ひして無理にそうじをしてもらったわけでございます。それ一回やつただけでも相当一中の下から那古海岸にかけてはきれいになったわけです。だからそれくらい予算を組んでくれば、ある程度の海岸線の美化というものはできるんじゃないかと思いますが、ことし渡りました予算書を見てもなんかおざなりのなちよつとした予算しかなくて、実際問題としては館山全体の海岸線がある程度きれいにするという線はございせんが、いま自分たちの姿勢は、市長さんが海岸清掃の車等考えているということでございしますので、この点は前向きの姿勢でよろしく願ひいたします。

それから、北条海岸のヤシ並木のその後の手入れについてでございますが、市長さんの話ではそこに花等植えまして、前向きな姿勢で取り組んでくれるという御回答でございました。昭和四十二年に百四十二本のヤシを移植して、当時は青々として、市の宣伝の「花の館山」等にもヤシの並木はうたわれておりますが、現在はおそらく百本程度になつてしまつたのではないかと。綿密に言いますれば過半数は枯れたりなんかして、本来の青々としたヤシの姿というものは三分の一程度しかないんじゃないかと、われわれ見た目には思うんです。昨年度市では専門家を招きまして原因調査をするという話があつたんですが、専門家を呼びました結果はどうなつたかお聞かせいただきたいと思ひます。

○経済部長（太田博雄君） ヤシの管理についてでございますが、

実は五月に観葉植物の權威者でございす岐阜大の水野耕一先生という方をお招きいたしました、ヤシの点につきましていろいろ調査いたしてもらつたわけでございます。その中で、原因と思われるのは、風の強いということは当然でございすけれども、砂が根元に相当たまつておりまして水分の吸収ができない、いわゆる深植えになつていふことがまず一番に指摘されたわけでございす。そういうことから、本年砂を半分——二十カ所でございす、除去いたしまして、水通しのいい状態にしたわけでございす。それが一つの原因ということでございす。それから二点におきましては肥料が少ないのではないかと。これはいろいろの面でうかがわれる点もありますので、早速その点で配慮する予定であります。それから、もう一つは葉を少し切り過ぎるということが指摘されたわけでございすけれども、この面も我々しろうとでございすので、その後のアドバイザーも頂いておるわけでありすが、主な点はそのようなところでございしました。

○一〇番（流山源次郎君） 市のほうとしても、専門家を招いて原因調査を行つている前向きな姿勢はわかりすが、要するに予算をもつて、そして業者にまかせて管理をするということだけでは何かヤシに対しての愛情がないんじゃないかと思ひます。よく海岸線を御覧になればわかると思ひすが、手入れをされたところのヤシはいまだに生き生きとして葉を繁らしておるんでございす。そういうことを考えた場合に、ただ予算を組んで業者まかせて愛情がないということがヤシを枯らす原因ではなからうかと思ひますので、今後十分考えていただきたいと思ひます。

それから、三十九年の三月に——年月日が間違つていたらお詫

びいたしますが、そのときにこの議場におきまして館空基地拡張反対の決議が全会一致で可決されておりまして、その後市と防衛庁の話し合いで、道路整備、護岸整備の話し合いがあつたことを聞いております。いま市長さんのお話でも、市独自で払い下げしてやるか、または防衛庁の施設のもとで舗装、整備、また護岸の整備をやるか思案中のような話でございますが、これは市としてどちらをとつて舗装なり護岸をしていくか、はつきりした線がわかりましたらお願いします。

○市長（半沢良一君） 現在のところどちらがいいか決めかねてゐるわけでございますので、早急にできる方法でやりたいと考えてゐるわけでございます。

○一〇番（流山源次郎君） 私どもは、舗装されて護岸がしつかりできればどちらでもいいという普通の考えでございますが、私は非常に心配することは、いままで館山の自衛隊の周囲の問題で、地元の漁民とそれから防衛庁の話し合いによつたときにはいろいろ問題があるわけでございます。結局防衛庁としてはいけすがじやまになつてしまうがないということで本船の通路をあけてもらいたい、そのかわり漁民のほうで網なんかをあげる場所をつくつてあげましょうということで、現在つけております舟艇の航路をあけましていけすを移動したわけなんです、一方的な話ではできません。でも代替地のいけすをあげる場所をつくつてくれないということ。また滑走路払い下げにつきましては、漁民がいつもいけすをあそこから車にあげまして、岡に引きあげてゐるわけですが、それを自衛隊に払い下げる件でございます、これはわれわれ漁民としても急がしいで滑走路を使うんだが、なんかそういうときは年中

あんた方は使つてないんだから利用させてくれ、いいでしょ、というところで滑走路の払い下げを漁民側が黙認したわけです。そうしたら、そこに金網を張つてとうせんぼしてしまふということがあるわけですが、今度は鷹の島から沖の島までに自衛隊の予算で護岸整備された場合には、鷹の島の周辺には非常に危険な爆発物が貯蔵されてゐるわけですが、自衛隊があそこへ自動車等できつて、爆発物で危険だと言われたら、網を張られてしまつたら、せつかく舗装されたものが通れないという結果を招かないかどうか。そのへんにつきましては市の見解をお聞かせいただきたいと思ひます。

○市長（半沢良一君） そういう問題が起こらないように、今後もし防衛庁にお願いするような場合でしたら、防衛庁と十分交渉してしつかりした協定を結びたいと思ひます。

○一〇番（流山源次郎君） いま市長さんの言つたその点で、今後防衛庁との折衝におきましては十分注意してお願ひしたいと思つております。

以上をもちまして、私の質問を終わりたいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一〇番議員君の質問を終わります。

延 会 午後四時二十九分延会

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて本日はこ

れて延会することに決しました。

次回は明三月八日午前十時開会といたします。その議事は本日に引き続き行政一般質問を行います。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問

